

平成 16 年度（第 48 回）
岩手県教育研究発表会発表資料

現代的教育課題

**異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める
国際理解教育の交流活動の進め方に関する研究**
- 直接交流とふり返りを関連付けた段階的指導をとおして -

平成 17 年 2 月 9 日
長期研修生
所属校 東和町立土沢小学校
谷 藤 明 子

< 目 次 >

研究目的	1
研究仮説	1
研究の内容と方法	1
1 研究の内容	1
2 研究の方法	2
3 指導実践の対象	2
研究結果の分析と考察	2
1 異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める国際理解教育の交流活動の進め方に関する基本構想	2
(1) 異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める国際理解教育の交流活動の進め方に関する基本的な考え方	2
(2) 直接交流とふり返りを関連付けた段階的指導を行う意義	3
(3) 異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める国際理解教育の交流活動の進め方に関する基本構想図	4
2 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察	6
(1) 実態調査計画	6
(2) 実態調査の分析と考察	6
(3) 手だての試案作成上の配慮事項	7
3 直接交流とふり返りを関連付けた段階的指導の手だての試案	8
(1) 手だての試案	8
(2) 検証計画	9
4 指導実践及び実践結果の分析と考察	11
(1) 直接交流とふり返りを関連付けた段階的指導の概要	11
(2) 実践結果の分析と考察	14
5 異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める国際理解教育の交流活動の進め方に関する研究のまとめ	19
(1) 成果	19
(2) 課題	19
研究のまとめと今後の課題	19
1 研究のまとめ	19
2 今後の課題	20

< おわりに >

【参考文献】

【補充資料】

研究目的

経済、科学・技術、情報、文化等様々な分野で国際化が進展している今日、国際理解教育においては、異文化をもつ人々を共感的に理解し、互いに尊重し合いながら共に生きていくための資質や能力の育成が求められている。

しかし、児童の実態は、交流活動において、異文化をもつ人々と楽しんで接し、相手の身体的な特徴や言語、習慣など表層的な相違点に気付くことはできても、交流した人々の感情や考え方、生き方などの内面を共感的に理解するまでには至っていない。これは、異文化をもつ人々と接しながらも、相手のことを理解しようとする児童の意識が薄いことによると思われる。また、異文化をもつ人々と感情を共有し合えるような活動をさせたり、相手の立場に立って考えさせたりするような働きかけを、教師が十分に行ってこなかったことも要因として考えられる。

このような状況を改善するためには、直接交流とふり返りを関連付けた交流活動を継続的に行い、段階的に共感的理解を深める指導を行うことが必要である。そのために、異文化をもつ人々に対する知識の上での気付きを内面的な理解へ深める指導の段階を設定し、その段階ごとに、異文化をもつ人々とかかわる活動、感情の共有を図る活動、児童が共感的理解の変容を自分自身で見つめる活動を取り入れた指導を行うことが必要であると考えられる。

そこで、この研究は、国際理解教育において、直接交流とふり返りを関連付けた指導の工夫をとおして、異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める交流活動の進め方を明らかにし、小学校における国際理解教育の充実と向上に役立てようとするものである。

研究仮説

国際理解教育の交流活動において、直接交流とふり返りを関連付け、知識の上での気付きを内面的な理解へ深める指導の段階を設定し、その段階ごとに、以下のような児童の活動を取り入れた指導を継続的に行えば、異文化をもつ人々に対する共感的理解を深めることができるであろう。

- 1 異文化をもつ人と共に行動し、かかわる活動
- 2 異文化をもつ人と共に直接交流をふり返し、感情を共有する活動
- 3 異文化をもつ人への共感的理解の変容を自分自身で見つめる活動

研究の内容と方法

1 研究の内容

- (1) 異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める国際理解教育の交流活動の進め方に関する基本構想の立案

異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める国際理解教育の交流活動の進め方に関する基本的な考え方をまとめ、直接交流とふり返りを関連付けた段階的指導を取り入れた基本構想を明らかにする。

- (2) 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察

児童の異文化をもつ人々との交流に対する意識の実態について分析と考察を行い、手だての試案作成に役立てる。

- (3) 直接交流とふり返りを関連付けた段階的指導についての手だての試案の作成

基本構想及び実態調査に基づき、直接交流とふり返りを関連付けた段階的指導を取り入れた手だての試案を作成する。

- (4) 指導実践及び実践結果の分析と考察

直接交流とふり返りを関連付けた段階的指導を取り入れた交流活動の手だての試案を基に指導実践を行う。また、指導実践の結果に基づいて、異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める構成要素の変容状況について、分析と考察を行う。

(5) 異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める国際理解教育の交流活動の進め方に関する研究のまとめ

実践結果の分析と考察に基づき、異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める国際理解教育の交流活動の進め方についてまとめる。

2 研究の方法

(1) 文献法

基本構想の立案に当たり、先行研究及び文献などにより、異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める国際理解教育の交流活動の進め方について基本的な考え方をおさえる。

(2) 質問紙法

自作の質問紙により、手だての試案作成にかかわる実態把握及び指導実践をとおしての児童の変容について調査する。

(3) 指導実践

手だての試案に基づいて直接交流とふり返りを関連付けた段階的指導による指導実践を行う。

3 指導実践の対象

東和町立土沢小学校 第4学年（男子11名 女子14名 計25名）

研究結果の分析と考察

1 異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める国際理解教育の交流活動の進め方に関する基本構想

(1) 異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める国際理解教育の交流活動の進め方に関する基本的な考え方

ア 「共感的理解」とは

国際理解教育において、異文化をもつ人々を理解していく上では、児童に違いを違いとして認識していく態度や、共通性を見つけていく態度を育成することが必要である。

このことから、本研究においては、異文化をもつ人との交流活動で児童に培いたい「共感的理解」の在り方を「異文化をもつ人との共通性や違いを探り、相手の立場に立って考えようとする」ととらえる。

国際理解教育の交流活動において、児童が異文化をもつ人のことを知りたいという願いをもち、共に行動することによって、児童の中に自ら働きかけようとする意識が芽生えてくると考える。また、異文化をもつ人について知ることにより、児童は、相手の立場に立って考えようとする意識をもつようになると考える。

そこで、異文化をもつ人々に対する共感的理解の構成要素を「働きかけようとする意識」「知ろうとする意識」「考えようとする意識」とし、それぞれの意味を【表1】のようにとらえる。

イ 「共感的理解を深める」とは

児童は、異文化をもつ人への興味や関心をもっており、交流活動において楽しんで接している。しかし、その興味や関心は、身体的な特徴や言語、習慣など、表層的な部分に向けられたものである。異文化をもつ人との交流活動をとおして、共感的理解を深めるには、児童の興味や関心を大切にしながら、徐々に相手の内面に目を向けさせていくことが必要である。

【表1】共感的理解の構成要素

構成要素	意味
働きかけようとする意識	異文化をもつ人と共に行動し、自ら働きかけようとする意識
知ろうとする意識	異文化をもつ人との共通性や違いを知ろうとする意識
考えようとする意識	相手の立場に立って考えようとする意識

内面とは、その人の思いや価値観等であり、それらは、その人の感情や考え方、生き方に表れる。児童は異文化をもつ人の感情や考え方、生き方に気付くことによって、相手の立場に立って考えようとする意識をもつようになると考える。

このことから、本研究において、「共感的理解を深める」とは、「児童が異文化をもつ人との共通性や違いを探り、相手の立場に立って考えようとする過程において、児童の意識を異文化をもつ人の表層的な部分から、内面へ向けていくこと」とする。そこで、異文化をもつ人に対する共感的理解を深める段階と、その段階でのねらいを【表2】のように設定する。

【表2】共感的理解を深める段階とねらい

段 階	ね ら い
表層的な気付きの段階	身近な生活や文化について、互いの共通点や相違点に気付かせる
内面への気付きの段階	互いの思いや価値感等、内面の共通性や違いに気付かせる
内面の理解の段階	異文化をもつ人の内面にふれ、相手の立場に立って考えようとする意識をもたせる

(2) 直接交流とふり返りを関連付けた段階的指導を行う意義

ア 直接交流とふり返りで行う活動

交流活動を、異文化をもつ人と共に行動する「直接交流」の場と、直接交流の場における気付きや感想、考えを共有したり、共感的理解の変容を見つめたりする「ふり返し」の場で構成し、【表3】に示したような活動を行う。

直接交流においては、各段階のねらいに迫るための活動や、児童の計画による活動、異文化をもつ人の話を聞く活動等の「かかわる活動」を行う。

かかわる活動とは、異文化をもつ人と共に行動し、自ら働きかける活動である。この活動の計画を立てる過程で、相手の立場に立って考えようとする意識が深まると考える。また、かかわる活動においては、児童が、異文化をもつ人と共に活動することの楽しさや、その人について初めて知ったことに対する新鮮な驚きを十分に味わうことが大切である。そのことによって、児童の働きかけようとする意識が深まると考える。

【表3】直接交流とふり返りで行う活動

場	活 動	内 容
直接交流	かかわる活動	・直接交流の計画を立てる ・異文化をもつ人と共に、ゲームをしたり話を聞いたりして交流する中で、質問をしたり話しかけたりして自ら相手に働きかける
		・シェアリングを行い、異文化をもつ人と共に直接交流をふり返し、感じたことや気付いたこと、考えたことを話し合うことによって共有する
ふり返し	見つめる活動	・直接交流やシェアリングをとおして学んだことを記録し、共感的理解の変容を見つめる

ふり返しは、直接交流における児童の気付きや感想、考えを児童自身がとらえ、次の交流活動への課題をもつ場である。直接交流での体験を学びとして児童にフィードバックするために重要である。ふり返しにおいては、「感情を共有する活動」と「見つめる活動」を行う。

感情を共有する活動では、直接交流で味わった楽しさや新鮮な驚きなど、児童個々の気付きや感想、考えについて、異文化をもつ人と共に話し合うことによって共有する。本研究においては、この活動を「シェアリング」と呼ぶこととする。シェアリングをとおして、児童は、異文化をもつ人や他の児童の発言を聞き、異文化をもつ人に抱いていた考えを修正したり、深めたりすることができるようになると考える。

見つめる活動では、児童に「フレンドカード」「フレンドステップ」「フレンドメモリ」に記録する活動や異文化をもつ人への手紙を書く活動を行わせ、直接交流やシェアリングをとおして自分自身の共感的理解が変容したことを児童がとらえられるようにする。それぞれに記録する内容は、【表4】のとおりである。なお、それぞれのカードを巻末の【補充資料1】に示す。

各交流活動において記録したフレンドカード、フレンドステップ、フレンドメモリは、フレンドファイルに綴じておき、まとめの際に蓄積した記録を見直すようにする。このことにより、児童は、交流活動全体をとおして自分自身の異文化をもつ人に対する共感的理解がどのように変容したのかをとらえ、この交流活動で学んだことを他の異文化をもつ人との交流に生かすことができると思う。

イ 「直接交流とふり返りを関連付ける」とは
「直接交流とふり返りを関連付ける」とは、交流活動を継続して行い「直接交流 　ふり返り 　直接交流…」というつながりの中で、かかわる活動、感情を共有する活動、見つめる活動をとおして児童の異文化をもつ人に対する共感的理解を深めていくことである。

児童が、かかわる活動で得た異文化をもつ人との体験を、感情を共有する活動や見つめる活動で学びとしてとらえ、次の交流活動での体験に生かすことによって、共感的理解が深まっていくと考える。学んだことが次の交流活動に生かされるようにするために、1回の交流活動の基本的な指導過程を【表5】のように設定する。

以上のことから、直接交流とふり返りを関連付けた段階的指導を行うことは、異文化をもつ人々に対する児童の共感的理解を深める上で、意義があると考えられる。

(3) 異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める国際理解教育の交流活動の進め方に関する基本構想図

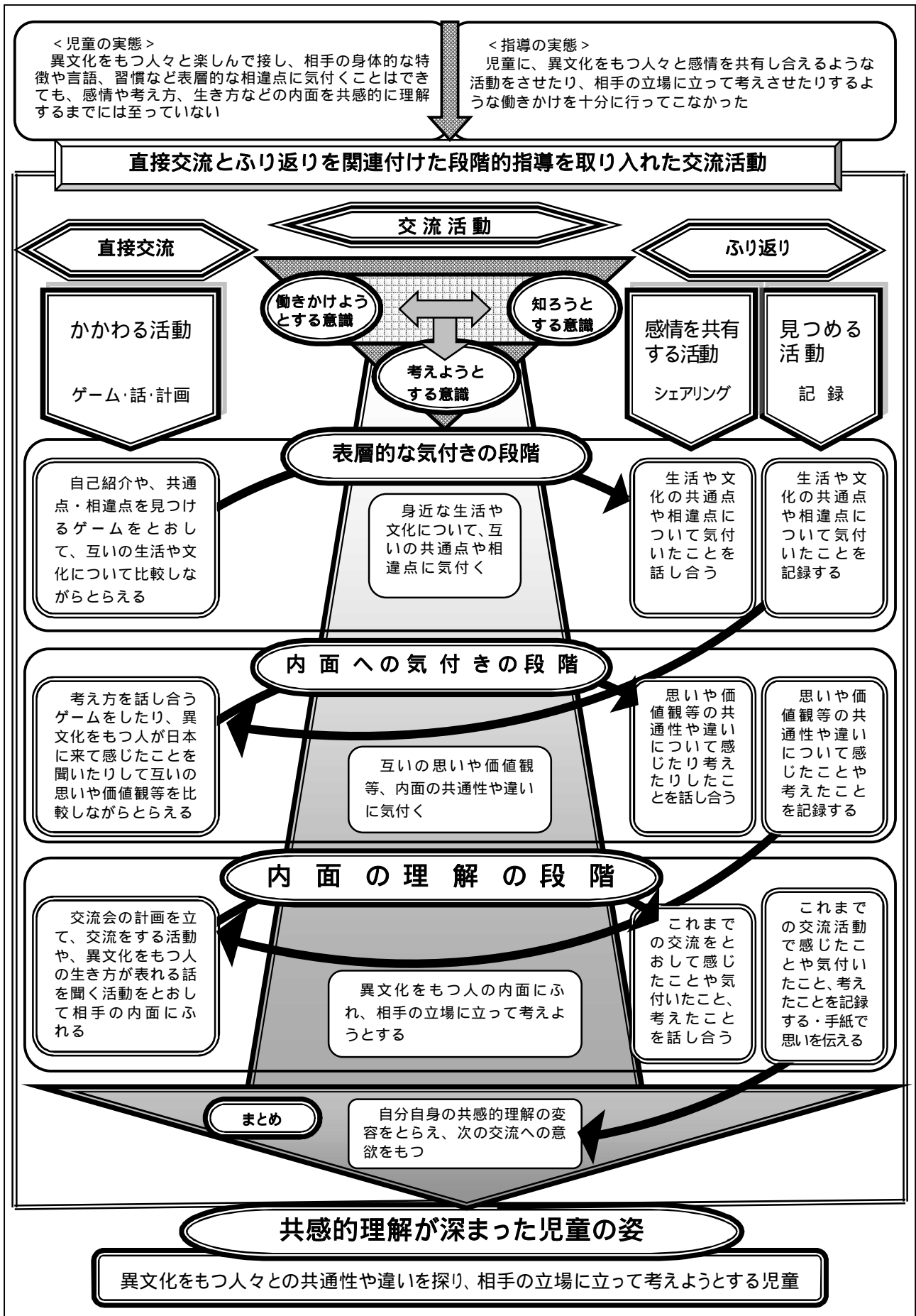
これまで述べてきたことを基に、異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める国際理解教育の交流活動の進め方に関する基本構想図を次頁【図1】のように作成した。

【表4】見つめる活動で行う記録の内容

形式	内 容
フレンドカード	交流活動をふり返り、下記の内容について記録する ・児童の気付き、感想、考え ・他の児童の行動や発言で心に残ったこと ・交流活動に対する自己評価 ・次の交流活動における児童の課題
フレンドステップ	各段階のねらいを具体的な内容で示してある14の項目の中で、児童自身が達成できたと思うものに色を塗る 児童自身が変容をとらえ、次の交流活動の課題をもつために活用する
フレンドメモリ	異文化をもつ人に対する心の距離のイメージを簡単な数直線上の目盛りに表し、目盛りを進めた理由も記述する 異文化をもつ人への意識の変容を児童が視覚的にとらえる
手紙	最後の交流活動において、手紙を書き、この単元をとおして児童の心の中に生まれた異文化をもつ人への感情を見つめたり、異文化をもつ人の気持ちを考えたりする

【表5】交流活動の基本的な指導過程

活 動 の 内 容		
体験	異文化をもつ人と共に行う活動	かかわる活動 ・児童の計画による活動 ・ねらいに迫るための活動 ・異文化をもつ人の話 感情を共有する活動 ・シェアリング
学び	60分	
体験	児童と教師が行う活動	見つめる活動 ・共感的理解の変容の記録 かかわる活動 ・次の交流の計画
	30分	



【図1】異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める国際理解教育の交流活動の進め方に関する基本構想図

2 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察

(1) 実態調査計画

ア 実態調査の目的

対象となる小学校4年生児童の異文化をもつ人々と交流することに対する意識の実態から問題点や課題を把握し、直接交流とふり返りを関連付けた段階的指導を取り入れた手だての試案作成に必要な資料を得ることを目的として行う。

イ 調査対象

東和町立土沢小学校 4学年（男子11名 女子14名 計25名）

ウ 調査日時

平成16年7月14日（水） 1校時

エ 調査の内容

(ア) 異文化をもつ人と交流することに対する興味・関心・意欲の実態について知る

(イ) 異文化に対する興味・関心の実態について知る

(ウ) 自分が感じたことを話す活動の実態について知る

実態調査の具体的な設問内容は、【表6】のとおりである。なお、実態調査の調査紙を【補充資料2】に示す。

【表6】実態調査の設問

調査の観点	番号	設問内容
異文化をもつ人と交流することに対する興味・関心・意欲の実態	1	日本語を話すことができる外国の人と交流活動をするとします。あなたは、外国の人と交流をするとき、どんなことを一緒にしてみたいですか。してみたいこと全部に を付けてください。
異文化に対する興味・関心の実態	2	あなたは、外国の人にどんなことを聞いてみたいですか。聞いてみたいと思うこと全部に を付けてください。
自分が感じたことを話す活動の実態	3	あなたは、交流活動で感じたことを、外国の人に話したいと思えますか。自分の気持ちにあてはまるものを一つ選んで、 を付けてください。

(2) 実態調査の分析と考察

ア 異文化をもつ人と交流することに対する興味・関心・意欲の実態

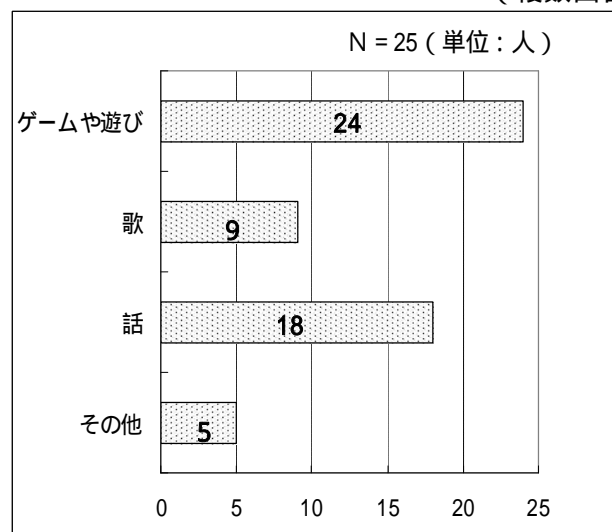
異文化をもつ人と交流することに対する興味・関心・意欲の実態についての調査結果をグラフに表したものが、

【図2】である。図に示したように、「ゲームや遊びをする」と答えた児童が24人、「話をする」が18人であり、これらは、ほとんどの児童が行いたいと思っている活動であることが分かる。

また、これまでの交流活動で行ってきた「歌」と答えた児童は、9人であった。その他は5人で、内容は、「英語を教えてもらいたい」が2人、

【図2】異文化をもつ人と交流することに対する興味・関心・意欲の実態 「外国に行ったときの買い物の仕方」

設問 1 あなたは、外国の人と交流するとき、どんなことを一緒にしてみたいですか。
(複数回答)



が1人、「本読みをする」が1人、「いっしょに絵を描く」が1人であった。

イ 異文化に対する興味・関心の実態

異文化に対する興味・関心の実態についての調査結果をグラフに表したものが、【図3】である。

図に示したように「外国の遊び」と答えた児童が20人、「外国のスポーツ」が18人、「外国の人の家族」が14人、「外国の学校」と「外国の食べ物」が13人ずつであり、半数を超える児童が選んでいる。

このことから、生活に身近で、児童が普段楽しいと感じていることについて、興味・関心が強いことが分かる。

ウ 自分が感じたことを話す活動の実態

自分が感じたことを話す活動の調査結果をグラフに表したものが【図4】である。

図に示したように、「とても話したい」と答えた児童が24.0%(6人)、「話したい」が72.0%(18人)、「あまり話したくない」が4.0%(1人)であっ

た。「話したくない」と答えた児童はいなかった。

このことから、96.0%の児童が、交流活動で自分が感じたことを異文化をもつ人に話すことに対して意欲をもっていると言える。

また、設問3で「あまり話したくない」と答えた児童1人は、その理由について「自分が感じたことをどのように話したらいいかわからないから」と答えた。

(3) 手だての試案作成上の配慮事項

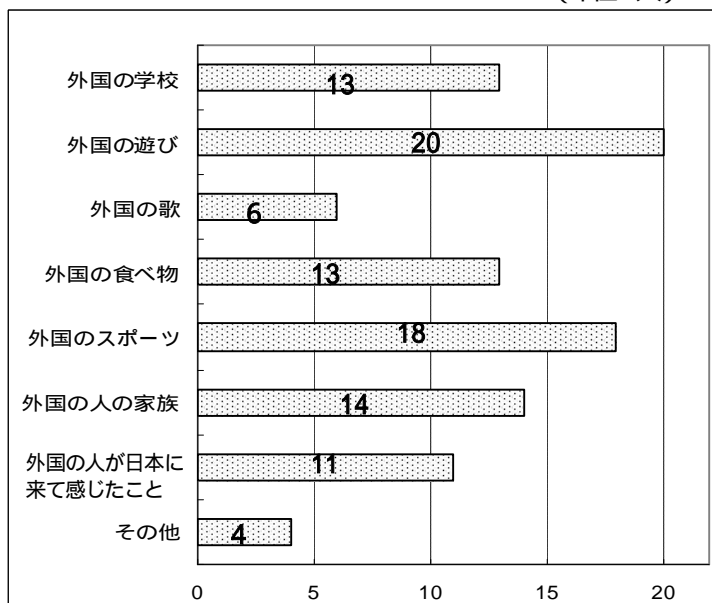
実態調査の結果から、次のような配慮事項が明らかになった。

ア 直接交流においては、ゲームと異文化をもつ人の話を中心に行う。

イ ゲームや異文化をもつ人の話の中で遊び、スポーツ、食べ物、学校、「日本に来てから感じたこと」等の内容にふれられるようにする。

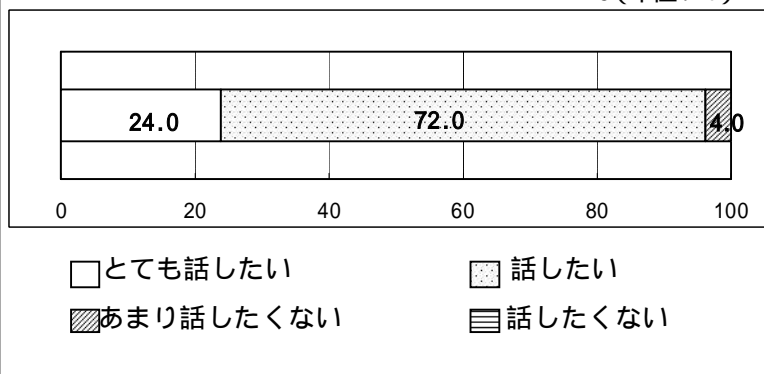
ウ 話す内容の観点を明らかに示し、児童があまり抵抗を感じずにシェアリングに参加できるようにする。

設問 2 あなたは、外国の人にどんなことをきいてみたいですか。(複数回答) N=25(単位:人)



【図3】異文化に対する興味・関心の実態

設問 3 あなたは、交流活動で感じたことを、外国の人に話したいと思いますか。 N=25(単位:%)








【図4】自分が感じたことを話す活動の実態

3 直接交流とふり返りを関連付けた段階的指導の手だての試案

(1) 手だての試案

直接交流とふり返りを関連付けた段階的指導の手だての試案を【図5】のように作成した。

段階	ねらい	活動名	学 習 活 動	留 意 点	
オリエンテーション			<p>単元の見通し 計画（次の交流活動のゲームについて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出会いを楽しむためのゲーム ・ フレンドカード等の使い方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマの説明をとおして児童の意欲を喚起する 	
表層的な気付きの段階	身近な生活や文化の共通点や相違点に気付かせる、互いの	60分	<p>直接交流</p> <p>出会いを楽しむためのゲーム</p> <p>・ 自己紹介 ・ 生活や文化の共通点や相違点を見付けるゲーム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの頃の遊びの話を含めて自己紹介をしていただく 	
		1	<p>シェアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感じたことや気付いたこと ・ 話し合い「相違点があっても外国の人と仲良くなれるのだろうか」 <p>記録</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 直接交流やシェアリングで感じたことや気付いたこと等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ シェアリングでは、気付いたことを中心に話すようにさせる ・ 相違点だけではなく、共通点もあることをおさささせる 	
内面への気付きの段階	互いの思いや価値観等、内面の共通性や違いに気付かせる	90分	<p>計画（次の交流活動のゲームについて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化をもつ人の生活や文化について学んだことを生かした計画 		
		2	<p>直接交流</p> <p>異文化をもつ人が子どもの頃にした遊びやゲーム等</p> <p>・ 互いの価値観等が表れるゲーム ・ 異文化をもつ人が日本に来て感じたことについての話</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考え方に違いや共通性があることに気付かせる 	
内面の理解の段階	異文化をもつ人の内面にふれ、相手の立場に立って考えようとする意識をもたせる	90分	<p>計画（次の交流活動のゲームについて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学んだことを生かし、思いが表れるような交流会の計画 		
		3	<p>直接交流</p> <p>【交流会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流活動1と2で学んだことを基にした活動 ・ 児童の異文化をもつ人に対する思いを伝えるための活動 ・ 異文化をもつ人の生き方についての話 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の立場に立って考えるという観点で計画を立てさせる 	
		90分	<p>シェアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流会について感じたことや気付いたこと、考えたこと ・ 異文化をもつ人の生き方について感じたことや気付いたこと、考えたこと ・ 児童が計画した交流会について異文化をもつ人が感じたこと <p>記録</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流会について感じたことや気付いたこと、考えたこと、 ・ 異文化をもつ人の生き方について感じたことや気付いたこと、考えたこと ・ 異文化をもつ人への手紙 	<ul style="list-style-type: none"> ・ シェアリングでは、気付いたことや感想を中心に話すようにさせる 	
まとめ		60分	<p>単元をとおしてのふり返し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単元をとおして自分自身の共感的理解の変容 ・ 単元をとおして学んだこと ・ 他の異文化をもつ人と接するとき生かしたいこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人の共感的理解の変容を認め合えるようにさせる 	

【図5】直接交流とふり返りを関連付けた段階的指導の手だての試案

(2) 検証計画

指導実践をとおして手だての試案の妥当性をみるために、【表7】及び次頁【図6】に示した検証計画を作成した。【図6】の異文化をもつ人々に対する共感的理解の深まりの変容状況に関する検証計画は、検証の内容・方法・処理解釈の方法と、検証の観点並びに児童の変容を見取る主な観点の総合的な関連を表したものである。

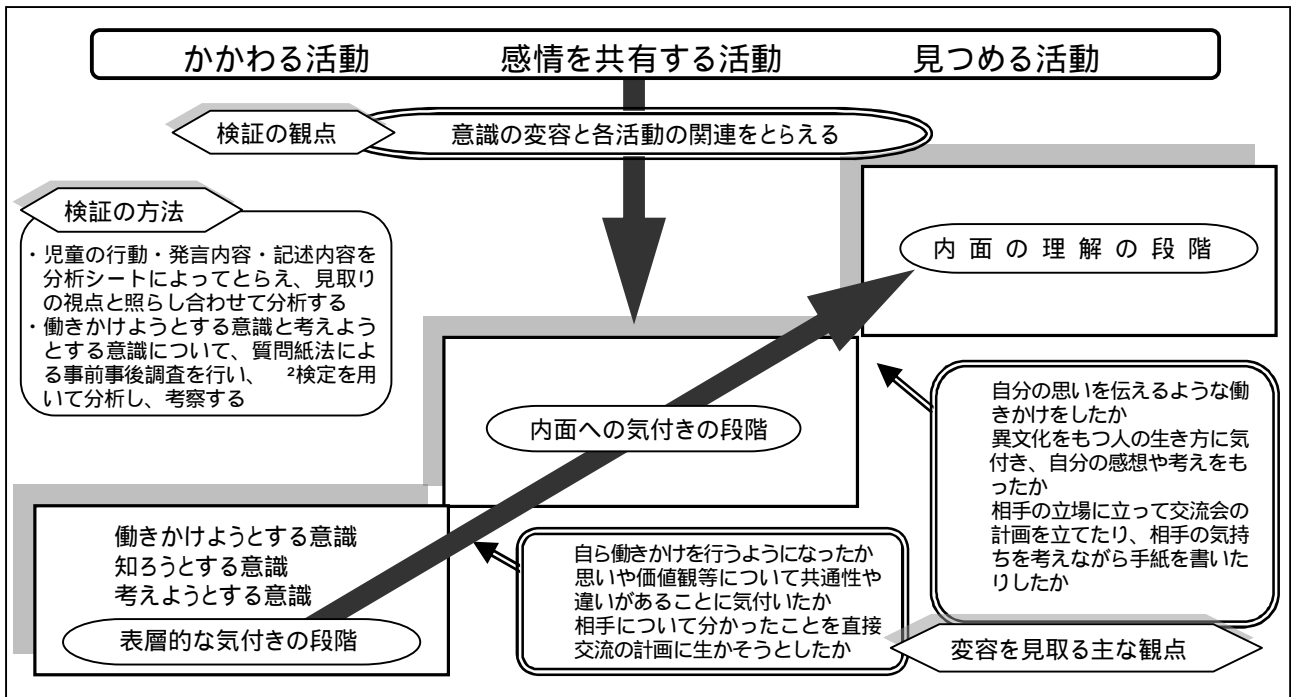
検証にあたっては、児童個々の働きかけようとする意識、知ろうとする意識、考えようとする意識の変容と、かかわる活動、感情を共有する活動、見つめる活動の関連をとらえることに重点を置く。従って、異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める各段階のねらいに対して、児童個々の意識が到達したか否かをみるのではなく、各段階のどの活動によって、児童の意識が表層的な気付きから内面への気付き、内面の理解に変容したのかということに着目して考察を行う。

そのために、各児童の行動、発言、記述内容を巻末の【補充資料3】に示した分析シートによってとらえ、【図6】の中に表した見取りの視点と照らし合わせることによって、児童の意識がどのように変容したのかを分析する。その後、児童の意識の変容と各活動の関連をとらえることにより、考察を行う。

また、児童の全体的な変容の傾向について、働きかけようとする意識と考えようとする意識については、【補充資料4】に示す質問紙法による事前事後調査を行い、²検定を用いて分析し、考察を行う。知ろうとする意識については、児童の発言内容及び記述内容から全体的な傾向について分析及び考察を行う。

【表7】異文化をもつ人々に対する共感的理解の深まりに関する検証計画

検証項目	検証内容	検証方法	処理の方法
児童個々の異文化をもつ人々に対する共感的理解の深まりの変容状況	<構成要素> ・働きかけようとする意識 ・知ろうとする意識 ・考えようとする意識	・指導記録（ビデオ、メモ） ・記述内容（フレンドカード、フレンドステップ、フレンドメモリ、手紙）	(1) 児童の行動や発言、フレンドカード、フレンドメモリへの記録、交流した異文化をもつ人への手紙の内容を【図6】に示した見取りの視点と照らし合わせることにより、意識の状況をとらえる (2) フレンドステップを使用し、児童が自ら達成できたと思う項目にチェックさせることで、意識の状況をとらえる (3) (1)・(2)でとらえた意識の状況について、児童個々の変容をとらえるための分析シートを作成し、分析及び考察を行う
児童全体の異文化をもつ人々に対する共感的理解の深まりの変容状況	<構成要素> ・働きかけようとする意識 ・考えようとする意識	・質問紙法（評定尺度）により、指導実践の事前事後に実施	・ ² 検定により分析し考察する
	<構成要素> ・知ろうとする意識	・指導記録（ビデオ、メモ） ・記述内容（フレンドカード、フレンドメモリ）	・児童個々の知ろうとする意識の変容状況と合わせ、児童全体の傾向についても変容状況の分析及び考察を行う



意識	見 取 り の 視 点			記述例
働きかけようとする意識	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームで質問している (発言) □ <u>どんな遊びが好きですか</u> ・シェアリングで気付いたことを発言している (発言) □ <u>アメリカでも、~すると分かりました</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームで話しかけている (観察) ・シェアリングで感じたことを話している (発言) □ <u>さんが、「日本に来たとき~と思った」と言ったので驚きました</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が計画した交流会で自分の気持ちを伝えている (観察・発言) ・シェアリングで自分の気持ちや考えたことを話している (発言) □ <u>さんと交流して、外国の人と交流することについて~と思いました</u> 	
知ろうとする意識	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や文化の相違点を見付けている (フレンドカード) ・生活や文化の共通点を見付けている (フレンドカード) 	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化をもつ人の思いや価値観等について気付いている(発言・フレンドカード) □ <u>さんが~と思いながら日本で暮らしていることが分かった</u> ・思いや価値観等に共通性や違いがあることに気付いている (発言・フレンドカード) □ <u>家族を大切にする気持ちは、私と同じだと思った</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化をもつ人の生き方について気付いている(発言・フレンドカード・手紙) □ <u>さんが~と考えて~していることが分かった</u> ・異文化をもつ人の生き方について自分の感想や考えをもっている (発言・フレンドカード・手紙) □ <u>さんが~と考えていることについて、~と思った</u> 	
考えようとする意識	<ul style="list-style-type: none"> ・出会いを楽しむためのゲームを考え、記入している (フレンドカード) □ <u>フルーツバスケットをしてみたい</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・表層的な気づきの段階で学んだことを基に次の直接交流のゲームを考え、記入している (フレンドカード) □ <u>さんが子どもの頃にしたい遊びをしてみたい</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・表層的な気づきの段階、内面的な気づきの段階で学んだことを基に相手の立場に立って直接交流の計画を立て、記入している (発言・フレンドカード) □ <u>さんの思い出に残るように~を交流会でしてみたい</u> ・相手の気持ちを考えながら、学んだことを書いたり自分の気持ちを書いたりしている (手紙) 	

【図6】異文化をもつ人々に対する共感的理解の深まりの変容状況に関する検証計画

4 指導実践及び実践結果の分析と考察

(1) 直接交流とふり返りを関連付けた段階的指導の概要

手だての試案に基づく指導計画は、【表8】に示すとおりである。なお、学習活動案は、巻末の【補充資料5】に、交流活動の指導実践の概要は、次頁からの【資料1】に示すとおりである。

【表8】手だての試案に基づく指導計画

段階	月日 時間	活 動 内 容	留 意 点
表層的な 気付きの 段階	8 / 27 (金) 60分	オリエンテーション 1 異文化をもつ人と交流することを知り、単元の見通しをもつ 2 自分の課題を決める 3 計画を立てる ・交流活動1のゲームを考える ・フレンドカードの使い方を知る	テーマの説明を ととして児童の 意欲を喚起する (フレンドカード)
	8 / 31 (火) 90分	交流活動1 1 ねらいに迫るための活動 をする ・自己紹介をする ・アンソニー氏の自己紹介を聞く 2 児童の計画による活動をする ・出会いを楽しむためのゲームをする 3 ねらいに迫るための活動 をする ・生活や文化の共通点を見付けるための「インタビュー ゲーム」をする 4 シェアリングをする 5 記録をする 6 交流活動2の計画を立てる	アンソニー氏の 自己紹介には、子 どもの頃の話を入 れ、児童の興味・関 心につなげる 計画には、交流で アンソニー氏に ついて分かった ことを生かすよ うにさせる (フレンドカード)
内面 への 気付きの 段階	9 / 7 (火) 90分	交流活動2 1 児童の計画による交流をする ・交流活動1で計画したゲームをする 2 ねらいに迫るための交流をする ・互いの価値観等が表れるゲーム「四つの窓」をする ・アンソニー氏による「日本に来て感じたこと」について の話を聞く 3 シェアリングをする 4 記録をする 5 交流活動3で行う交流会の計画を立てる	どの児童もゲーム の中でアンソニー 氏の考えや思い にふれられる場 を設定する 相手の立場に立っ て考えるという 観点をもって計 画を立てるよう にさせる (フレンドカード)
内 面 の 理 解 の 段 階	9 / 14 (火) 90分	交流活動3 1 児童の計画による交流会をする 2 ねらいに迫るための活動をする ・アンソニー氏の生き方についての話を聞く 3 シェアリングをする 4 記録をする 5 手紙を書く	シェアリングで は、考えたことを 中心に話し合え るようにさせる (フレンドカード・ 手紙)
の 段 階	9 / 16 (木) 60分	まとめ 1 アンソニー氏への手紙を発表し合う 2 単元をとおしてのふり返しを行う ・自分自身の共感的理解の変容をとらえる ・学んだことを話し合う ・他の異文化をもつ人と接するときに生かしたいことを話 し合う	フレンドカード・ フレンドステップ・ フレンドメモリ などの記録を基 に、自分自身の 変容をとらえら えるようにさせる

【資料1】指導実践の概要（3回の交流活動について示す）

段階	表層的な気づきの段階 90分	内面への気づきの段階 90分
<p>活動</p> <p>手だてにかかわる活動</p>	<p>身近な生活や文化について互いの共通点や相違点に気付かせる</p> <p>交流活動全体の課題意識（児童個々のもの）</p> <p>自分から進んで外国の人に話して、仲良くなりたい。</p> <p>【計画】</p> <p>日本の遊び大会をしてみたい。</p>	<p>互いの思いや価値観等、内面の共通性や違いに気付かせる</p> <p>交流活動2の課題意識（児童個々のもの）</p> <p>もっとアンソニーさんに話しかけてみたい。</p> <p>【計画】</p> <p>グリーンライト、イエローライト、レッドライトをしてみたい。（アンソニー氏が子どもの頃にした遊び）</p>
<p>かわ</p> <p>活動の内容</p>	<p>【直接交流】</p> <p>児童の計画による活動（日本の遊び）</p> <p>このカードは読むの？</p> <p>...</p> <p>恥ずかしくて顔を見られないな。</p> <p>ねらいに迫るためのゲーム（インタビューゲーム）</p> <p>好きな言葉は何ですか？</p> <p>「地球規模で考えて、地域で活動する」です。</p> <p>アンソニー氏の話（子どもの頃のこと・アメリカの生活）</p>	<p>【直接交流】</p> <p>児童の計画による活動（グリーンライト、イエローライト、レッドライト）</p> <p>ねらいに迫るためのゲーム（四つの窓）</p> <p>無人島に持って（連れて）行くとしたら？</p> <p>一年のうちで好きな日は、次のうちどれ？</p> <p>外国の人と接するとき一番大切なことは？</p> <p>（A B C Dの四つの選択肢から選ぶ）</p> <p>相手の人の気持ちを考えると、相手の人もこっちの気持ちを分かってくれると思うから、Dの窓にしました。</p> <p>アンソニー氏の話（日本に来て感じたこと・アメリカとの違い）</p>
<p>ねらい</p> <p>児童の発言</p>	<p>感情を共有する活動 15分</p> <p>【シェアリング】</p> <p>（児童）アンソニーさんは、子どもの頃、広いアメリカのいろいろな州に引っ越したのでびっくりしました。</p> <p>（アンソニー氏）みんな話を一生懸命に聞いてくれてうれしかった。積極的な質問にびっくりした。ゲームのやり方も詳しく説明してくれた。このような機会があったうれしかった。</p>	<p>感情を共有する活動 15分</p> <p>【シェアリング】</p> <p>（児童）「日本はきれいな国、日本人は親切だ」というアンソニーさんの初めの印象が、変わってきたというので、変わらないようにしていきたい。</p> <p>（アンソニー氏）みんなが自分の考えをはっきり話してくれてよかった。</p>
<p>アンソニー氏の発言</p> <p>児童の感想</p> <p>見つける活動 30分</p> <p>児童の記録</p>	<p>【記録】</p> <p>アンソニーさんと違うところが多いと思っていたけど、同じところも違うところと同じくらい見付かってびっくりした。</p> <p>フレンドメモリ（児童が記録したもの）</p> <p>そのメモリにしたわけは？ アンソニーさんについていろいろなことが分かったから</p>	<p>【記録】</p> <p>アンソニーさんと生まれた国は違うけど考えていることが同じところもあるんだなあと思いました。アンソニーさんの気持ちを分かっていたと思います。</p> <p>フレンドメモリ（児童が記録したもの）</p> <p>そのメモリにしたわけは？ アンソニーさんの気持ちかが分かったから。</p>

内面の理解の段階 90分

異文化をもつ人の内面にふれ、相手の立場に立って考えようとする意識をもたせる

交流活動3の課題意識(児童個々のもの)

アンソニーさんの楽しい思い出になるような交流会にしたい。

〔計画〕

だるまさんがころんだとグリーン...を合わせた
ルールของเกมをする。
握手をして楽しかったことを言う。

〔直接交流〕 児童が計画した交流会

「だるまさんがころんだ」と「グリーンライト...」
を合わせたゲーム

握手をして気
持ちは伝える



アンソニーさんと
いろいろなゲーム
をして楽しかったし、アンソニーさん
のお話を聞いて、日本が
きれいな国だと分かってうれ
しかったです。

アンソニー氏の話「生き方にかかわる話」
「地球を世話する」「ごみの問題」「私たちは一つ
の地球に住む仲間、敵ではなく人間同士」など

〔シェアリング〕

(児童) アンソニーさんに自分の気持ちをちゃんと
伝えられたと思います。アンソニーさんのお話
を聞いて「人間は敵同士じゃない」と思いました。
これからは、ごみを拾うようにしたいです。

(アンソニー氏) みなさんが私の話を聞いて心に
しっかり受け止めてくれてうれしいです。今日の
ゲームのように違う文化が出会って新しいもの
が生まれるということはとてもいいことで、他の
国の人と交流を進めていけば新しいものもつ
と生み出されると思います。

〔記録〕

(略) 私も今度からごみが捨てられていたら、進んで
拾うようにしたいです。アンソニーさんが「人間同士
は敵じゃない」と言っていたのが心に残りました。
(略) アンソニーさんが東和町のようなところは住み
やすいと言っていたけど東和町は小さいです。でも、
私は東和町が大好きです。〔手紙〕

フレンドメモリ(児童が記録したもの)



そのメモリにしたのは?
アンソニーさんに自分の気持ちを伝えたいから。

児童の様子(かかわる活動を中心に)

【表層的な気付きの段階】.....

計画を立てる活動では、これまでの集会活動の経験から「いすとりゲーム」や「フルーツバスケット」を考えた児童が多かった。話し合いにより、日本のことを伝えたいという児童の思いから、「日本の遊び」を行うことになった。直接交流では、アンソニー氏に興味をもちながらも、緊張した様子の児童が多く、アンソニー氏を自分たちのグループに誘うことはできなかった。アンソニー氏がグループに来た際に遊び方を質問されても答えることができない児童が半数以上いた。

ねらいに迫るためのインタビューゲームでは、予め質問内容を考えていたため、全員が質問をした。意欲的に二つ目の質問をする児童も多かった。自分との共通点や相違点を喜びや驚きをもって受け止める児童の姿が見られた。アメリカの文化についての質問よりも、アンソニー氏の趣味、生活、興味・関心についての質問が多かった。

【内面への気付きの段階】.....

計画を立てる活動では、ほとんどの児童が、アンソニー氏について分かったことを基に、ゲームを考えた。話し合いによりアンソニー氏が子どもの頃にした「グリーンライト、イエローライト、レッドライト」という遊びを行うことになった。

積極的におにや信号の役になろうとする児童が多く、明るい表情でゲームに参加していたが、アンソニー氏に進んで話しかけたりタッチしたりする児童はいなかった。

ねらいに迫るためのゲーム「四つの窓」では、アンソニー氏と同じ窓になった際に、どの児童も自分の考えを落ち着いて説明した。

【内面の理解の段階】.....

計画を立てる活動では、ゲームの他に「握手をして楽しかったことを言う」等、自分の気持ちを伝えるための活動を考えることができた児童が半数近くいた。アンソニー氏が好きな日本の遊びの「だるまさんがころんだ」とアンソニー氏が子どもの頃にした「グリーンライト...」のルールを合わせた遊びをしたいと発言した児童の考えに他の児童も賛成し、交流会で行うことになった。

ゲームでは、「アンソニーさんも入って下さい」と誘ったり、おにになった児童がアンソニー氏にタッチしたりして、進んでかかわろうとする姿が見られるようになった。

また、どの児童もアンソニー氏と握手をして自分の気付きや気持ちを伝えた。

シェアリングやフレンドカードへの記録、手紙を書く活動では、アンソニー氏の「地球に住む仲間として、環境を守ろう」という思いに対して、児童も自分の考えを話したり書いたりした。

【まとめ】.....

「他の外国の人と接するときに生かしたいこと」の記述
「自分から話しかけたい」「相手の気持ちを考えて交流する」
「交流の計画をするときに外国の人の話を生かす」等

(2) 実践結果の分析と考察 【表9】働きかけようとする意識と考えようとする意識の変容状況

ア 全体的な児童の意識の変容状況

検証計画に基づいて、働きかけようとする意識と考えようとする意識の変容状況を事前と事後の調査紙によりとらえたものが【表9】である。

働きかけようとする意識の変容状況について、設問1においては有意差がみられなかったが、設問2、3においては、有意差がみられた。

設問1については、事前調査において、プ

ラスの反応だった児童が、25人中22人(88.0%)であった。事前調査でマイナス反応だった3人の児童は、事後調査においては全てプラス反応に変容している。

また、次頁【図7】に示したように、児童の行動や発言内容及び記述内容を見取りの視点と照らし合わせて分析した結果、3回の交流活動をとおして、全ての児童が異文化をもつ人に自分の気持ちを伝えられるようになったので、働きかけようとする意識が内面の理解の段階に深まったととらえることができる。

これらのことから、働きかけようとする意識については、事前調査の段階において、児童は外国の人と一緒に楽しもうという気持ちがありながらも、自ら話しかけたり、自分の感想や考えを話そうとしたりする意識をもたなかったが、かかわる活動、感情を共有する活動、見つめる活動をとおしてこれらの意識をもつことができるようになったと考える。

知ろうとする意識の変容状況について、児童の発言内容及び記述内容を見取りの視点と照らし合わせて分析した結果、3回の交流活動をとおして、全ての児童が異文化をもつ人の生き方に気付き、それに対する自分の考えをもつことができた。そのため、知ろうとする意識が、内面の理解の段階に深まったととらえることができる。

しかし、異文化をもつ人との共通点や相違点を探ることをねらいとする表層的な気付きの段階の「インタビューゲーム」では、「宝物は何ですか」「釣りは好きですか」等、異文化そのものよりも、異文化をもつ人の生活や趣味、興味・関心について児童の質問が集中した。このことから、児童の興味・関心を大切にしながら、児童にとって身近な生活や文化と、異文化との共通点や相違点にも気付かせていくには、表層的な気付きの段階の前に、異文化をもつ人の「人となり」をとらえさせるための段階を設けることが必要であると考えられる。

また、異文化との共通性や違いについては、児童の記述内容や発言内容から、かかわる活動の「日本に来て感じたこと」「生き方について」の話をとおして気付いているということが分か

構成要素	設問	後			計	χ ² の値
		前	+	-		
働きかけようとする意識	1 あなたは、交流活動をしているとき、自分が楽しむだけではなく、「外国の人と一緒に楽しもう」と、思いますか	+	22	0	22	1.33
		-	3	0	3	
		計	25	0	25	
働きかけようとする意識	2 あなたは、交流活動でゲームをしているとき、「自分から進んで外国の人に話しかけよう」と思いますか	+	6	0	6	* 17.00
		-	17	2	19	
		計	23	2	25	
働きかけようとする意識	3 あなたは、交流活動で、「自分が感じたり考えたりしたことを、外国の人に話そう」としますか	+	7	0	7	* 17.00
		-	17	1	18	
		計	24	1	25	
考えようとする意識	4 あなたは、交流活動をしているときに「外国の人について分かっていることを生かして交流をしよう」と考えますか	+	11	0	11	* 14.00
		-	14	0	14	
		計	25	0	25	
考えようとする意識	5 あなたは、交流活動をしているときに「外国の人の気持ちを考えながら交流しよう」と、考えますか	+	21	0	21	4.00
		-	4	0	4	
		計	25	0	25	

〔注〕 (1) 事前調査は8月24日、事後調査は9月16日に実施したものである。
 (2) +としてとらえたものは、質問紙でアまたはイと回答したもの、-としてとらえたものは、ウまたはエと回答したものである。
 (3) *は有意水準5%で、有意差があることを示す。
 (4) χ²検定で用いた公式は、下記のとおりである。尚、bは-反応から+反応へ、cは+反応から-反応へ変わった数を示す。

$$b+c \geq 10 \text{ のとき } \chi^2 = \frac{(b-c)^2}{b+c}, \quad b+c < 10 \text{ のとき } \chi^2 = \frac{(|b-c|-1)^2}{b+c}$$

る。交流活動3の「生き方について」の話聞いた後のシェアリングでは、どの児童も異文化をもつ人の生き方に気付き、それに対する自分の考えを発言しており、知ろうとする意識が内面の理解の段階に深まっている。「生き方について」の話が、知ろうとする意識を深める上で重要な活動であることが分かる。

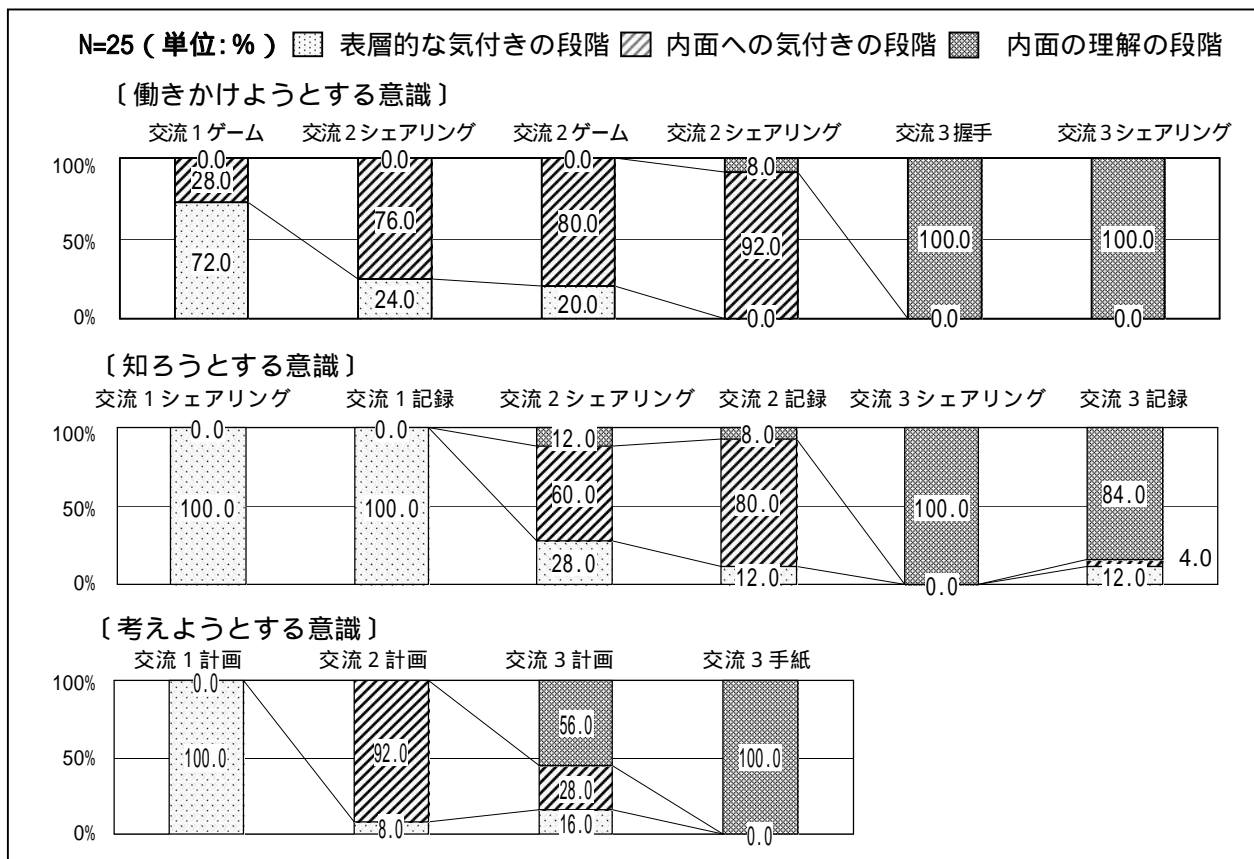
考えようとする意識の変容状況について、前頁【表9】の設問4においては、有意差がみられた。設問5においては、有意差がみられなかったが、事前調査においてマイナス反応であった児童4人が、事後調査においては、全てプラス反応に変容している。

また、児童が記述した計画と手紙の内容を見取りの視点と照らし合わせて分析した結果、全ての児童が相手の立場に立って計画を立てたり、相手の気持ちを考えながら手紙を書いたりすることができたため、考えようとする意識が内面の理解の段階に深まったととらえることができる。特に、交流活動3の手紙を書く活動をとおして、考えようとする意識が、表層的な気付きの段階や内面への気付きの段階から、内面の理解の段階に深まった児童は、25人中11人(44.0%)であり、全ての児童が内面の理解の段階に深まっている。このことから、見つめる活動において手紙を書くことにより、3回の交流活動で生まれた気付きや感情、考えを児童自身もとらえることができたと考えることができる。

児童の行動や発言内容、記述内容を見取りの視点と照らし合わせて分析した結果、3回の交流活動をとおして、全ての児童の意識が、内面の理解の段階に深まったととらえることができた。

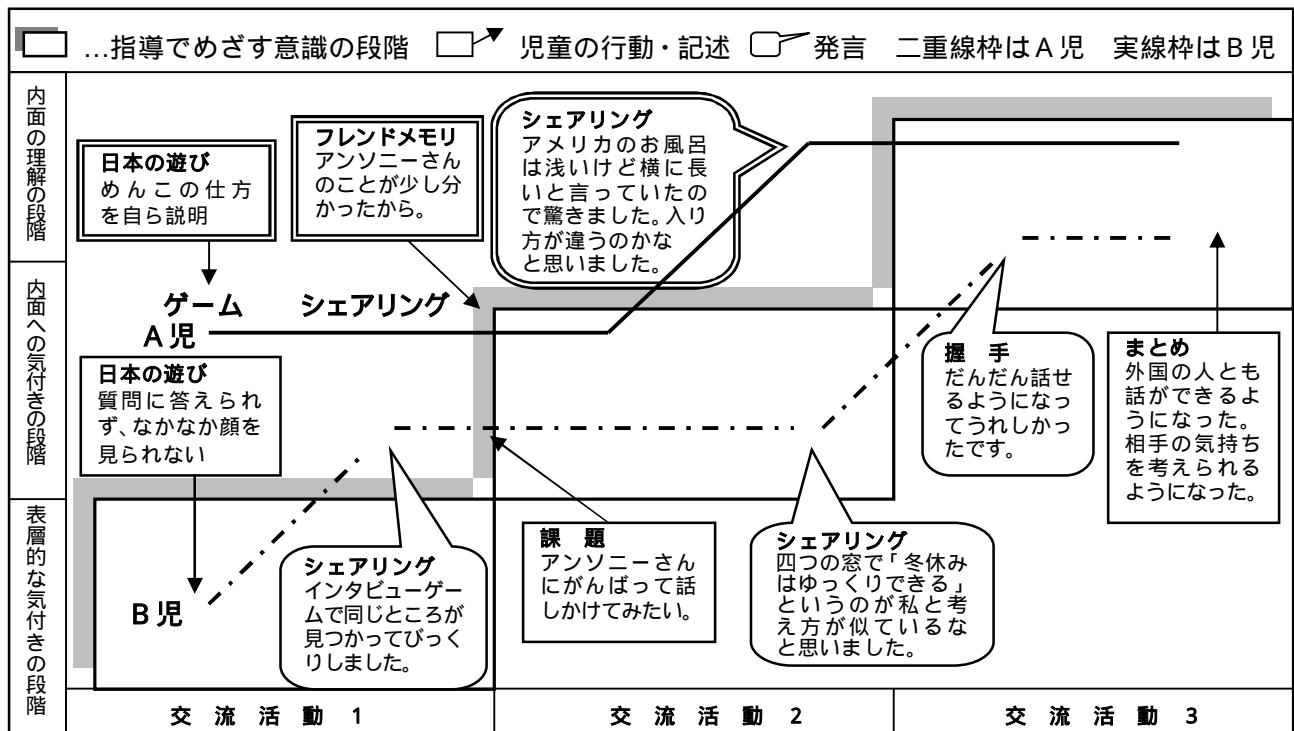
イ 児童個々の意識の変容状況

児童の意識の変容状況は、一人一人様々であった。そこで、次頁からの【資料2】【資料3】【資料4】において、各意識について二人ずつの児童の意識の変容状況と各活動との関連をとらえることにより、分析と考察を行う。



【図7】各活動における児童の意識の変容状況

【資料2】働きかけようとする意識の変容状況（A児とB児の変容を基に）



A児とB児について

児童個々の働きかけようとする意識についてみると、交流活動1の「日本の遊び」において、自ら進んで異文化をもつ人に話しかけ、遊び方の説明ができた児童と、異文化をもつ人に質問されても答えられなかった児童とに分かれた。前者のように異文化をもつ人と接することにあまり緊張を感じない児童は25人中7人(28.0%)であり、後者のように緊張を強く感じる児童は18人(72.0%)であった。

A児はあまり緊張を感じない児童、B児は緊張を強く感じる児童である。

A児の変容から（異文化をもつ人と接することにあまり緊張を感じない児童）

A児は、交流活動1の見つめる活動において、フレンドメモリを進めた理由として「アンソニーさんのことが少し分かったから」と記述した。このように、異文化をもつ人について知ることができたことを、気持ちが近づいた感じがする理由として記述した児童は、25人中20人(80.0%)であった。

また、A児は、交流活動2のシェアリングにおいて、風呂の形の違いへの気付きから、風呂の入り方の違いに考えを進め、自分の考えを入れながら発言しており、働きかけようとする意識が、内面の理解の段階に深まっている。

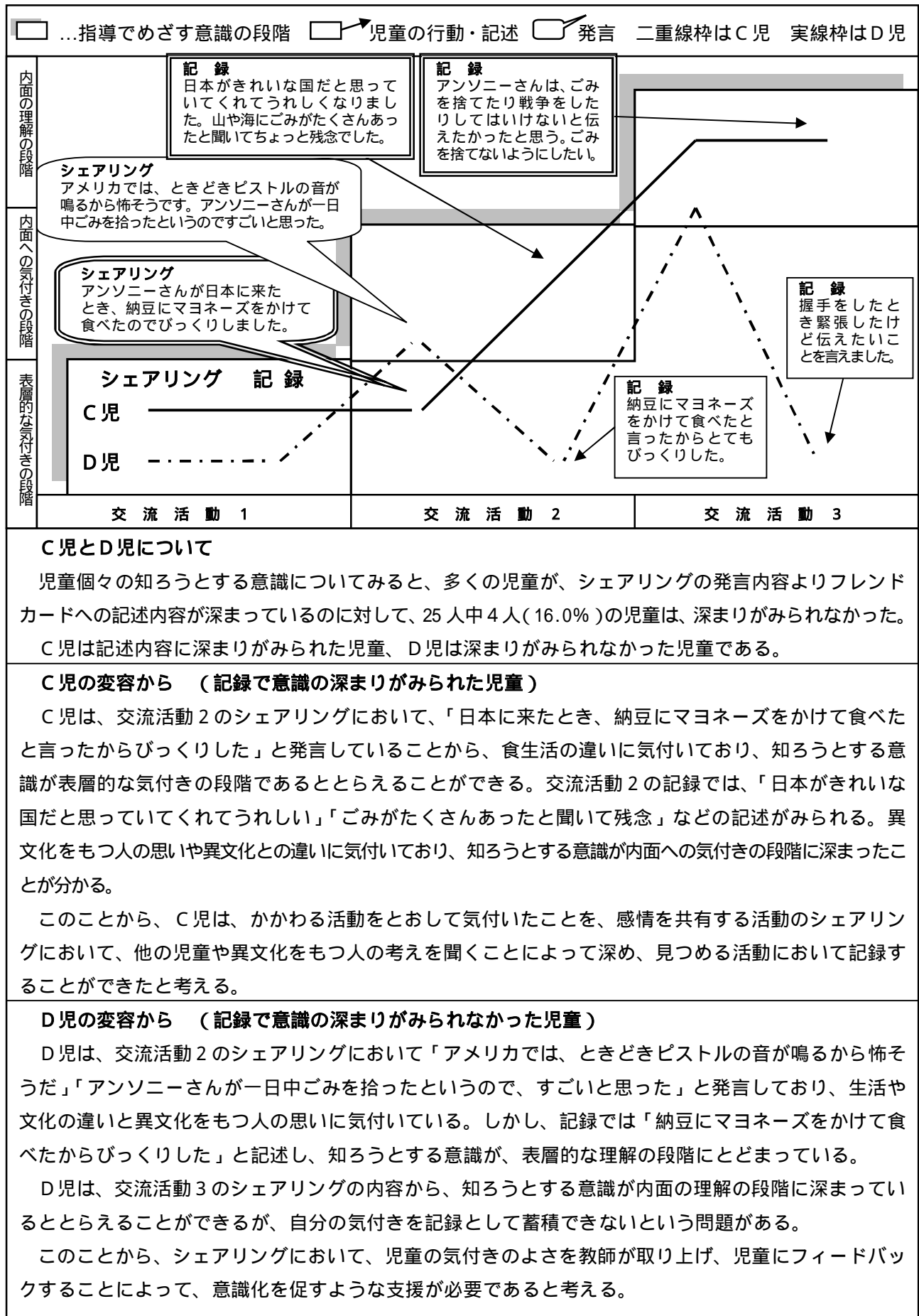
これらのことから、働きかけようとする意識は、知ろうとする意識とかかわり合いながら深まると考えることができる。

B児の変容から（異文化をもつ人と接することに強く緊張を感じる児童）

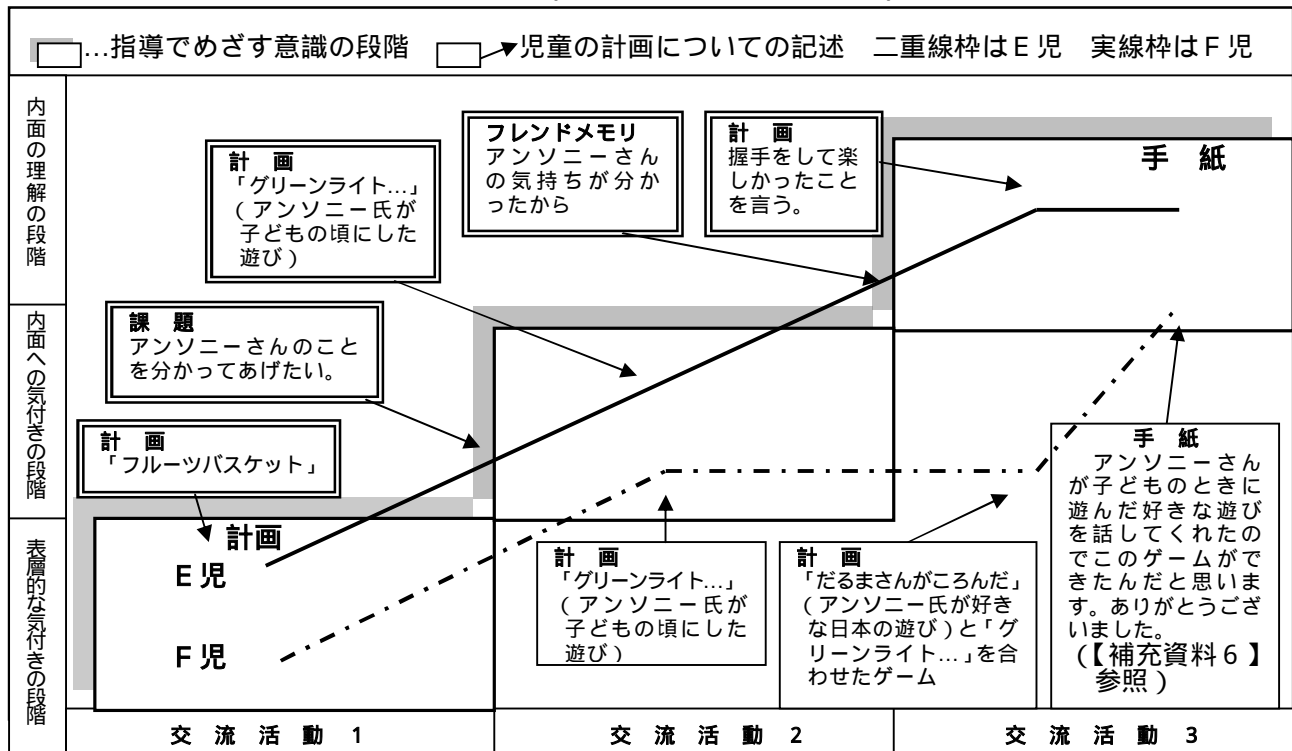
交流活動1の「インタビューゲーム」は、設定された状況で話す活動であったため、B児を含む全児童が、異文化をもつ人に質問することができた。B児は、シェアリングにおいて、異文化をもつ人と共通点があったことに対する驚きを述べ、次の交流活動の課題を「がんばって話しかけてみたい」と記述した。交流活動3の児童の計画による「握手をして自分の気持ちを伝える活動」においては、全児童が異文化をもつ人と握手をして自分の気持ちを伝えることができた。これは、B児のような児童にとっては大きな変容である。

このことから、B児は、異文化をもつ人を「自分とは共通点がない人」ととらえていたために、接することに対して緊張が強かったが、かかわる活動をとおして、自分との共通点があることに気付き、働きかけようとする意識が深まったと考える。A児の変容と同様に、異文化をもつ人に対する知ろうとする意識とかかわり合いながら、働きかけようとする意識が深まったと考える。また、B児の変容から、特に、自分と異文化をもつ人との共通点への気付きは、働きかけようとする意識の深まりと関連が強いといえる。

【資料3】知ろうとする意識の変容状況（C児とD児の変容を基に）



【資料4】考えようとする意識の変容状況（E児とF児の変容を基に）



E児とF児について

事前調査において、「外国の人について分かっていることを生かして交流しようとするか」という設問に対してプラスの反応を示した児童は 25 人中 11 人 (44.0%)、マイナスの反応を示した児童は 14 人(56.0%)であった。

E児は事前調査でプラスの反応を示した児童、F児はマイナスの反応を示した児童である。

E児の変容から（事前調査でプラス反応を示した児童）

E児は、交流活動2の課題として「アンソニーさんのことを分かってあげたい」と記述し、フレンドメモリを進めた理由を「アンソニーさんの気持ちが分かったから」と記述した。交流活動3の計画を立てる際には、「一人一人握手をして、楽しかったことを言う」と記述しており、異文化をもつ人に気持ちを伝えるための計画を考えることができた。さらに、単元のまとめにおいては、3回の交流活動をとおしてできるようになったこととして、「相手の気持ちを考えられるようになった」と記述した。

このことから、E児は、異文化をもつ人を理解したいという思いをもってかかわる活動を行い、見つめる活動において自分自身の気持ちの変容をとらえることをとおして、考えようとする意識が内面の理解の段階に深まったと考えることができる。

F児の変容から（事前調査でマイナス反応を示した児童）

F児は、交流活動3の課題に「アンソニーさんの思い出になるような交流会にしたい」と記述し、計画を立てる際には、異文化をもつ人が好きな日本の遊びと、異文化をもつ人が子どもの頃にしたアメリカの遊びを合わせたゲームを考えることができた。

このことから、F児は、かかわる活動で「異文化をもつ人について分かったことを生かして、楽しませたい」という思いをもち、相手について分かったことを生かして計画を立てる活動をとおして、考えようとする意識が深まったといえる。すなわち、かかわる活動の計画を立てることをとおして、働きかけようとする意識、知ろうとする意識が深まったことにより、考えようとする意識が深まったと考えることができる。

5 異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める国際理解教育の交流活動の進め方に関する研究のまとめ

異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める国際理解教育の交流活動の進め方について、成果と課題を以下に示す。

(1) 成果

ア かかわる活動において行った「インタビューゲーム」をとおして、異文化をもつ人と接することに緊張を強く感じる児童も、異文化をもつ人との共通点があることに気付き、知ろうとする意識が深まると共に、「話しかけてみたい」という思いをもつようになり、働きかけようとする意識が深まったこと。

イ かかわる活動において行った直接交流の計画を立てる活動をとおして、児童が「異文化をもつ人について分かったことを生かして、楽しませたい」という思いをもつようになり、働きかけようとする意識が、知ろうとする意識と共に深まったことにより、考えようとする意識も深まったこと。

ウ かかわる活動において、異文化をもつ人に「日本に来て感じたこと」「生き方について」の話の聞くことにより、児童が、互いの文化の共通性や違い、異文化をもつ人の思いに気付き、知ろうとする意識が深まったこと。

エ 感情を共有する活動において行ったシェアリングをとおして、他の児童や異文化をもつ人の考えを聞くことにより、児童の知ろうとする意識が深まったこと。

オ 見つめる活動において、異文化をもつ人への手紙を書く活動を行ったことにより、児童が相手の気持ちを考えようとする思いや、自分の気付きや気持ちを伝えようとする思いをもつようになり、考えようとする意識が深まったこと。

カ 見つめる活動において、フレンドカード、フレンドメモリ、異文化をもつ人への手紙を書く活動を行ったことにより、交流活動の中で生まれた気付きや感情、考えの変容を児童自身がとらえることができたこと。

(2) 課題

ア 表層的な気付きの段階における「インタビューゲーム」をとおして明らかになったように、交流活動の初めの段階において児童の知ろうとする意識は異文化そのものよりも、交流する人の生活や趣味、興味・関心にある。そのため、初めの段階として交流する人の人となりに気付かせるための段階を設け、次の表層的な気付きの段階においては、身近な生活や文化の共通点、相違点に焦点をあてた指導ができるようにする必要があること。(【表 10】参照)

イ 自分の気付きを記録として蓄積できない児童がいたことから、シェアリングにおいて、教師が児童の気付きのよさを取り上げ、児童にフィードバックすることにより、意識化を促す支援を行う必要がある。このことにより、どの児童も自分自身の変容をとらえられる記録を蓄積できるようになると考えられること。

以上のことから、直接交流とふり返りを関連付けた段階的指導の手だての試案をとおして、児童は、異文化をもつ人の感情や考え方、生き方などの内面を共感的に理解しようとするようになったといえる。従って、いくつかの課題はあるものの、手だての試案は、妥当であり、異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める上で効果があったと考える。

【表 10】共感的理解を深める段階とねらいの修正案(3頁【表 2】の修正案)

段 階	ね ら い
(仮)人となり に気付く段階	異文化をもつ人の生活や趣味、興味・関心に気付かせる
表層的な気付きの段階	身近な生活や文化について、互いの共通点や相違点に気付かせる
内面への気付きの段階	互いの思いや価値感等、内面の共通性や違いに気付かせる
内面の理解の段階	異文化をもつ人の内面にふれ、相手の立場に立って考えようとする意識をもたせる

太字が修正した部分

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

本研究は、国際理解教育において、直接交流とふり返りを関連付けた指導の工夫をとおして、

異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める交流活動の進め方を明らかにし、小学校における国際理解教育の充実と向上に役立てようとするものであった。その結果、仮説の妥当性を確かめることができた。なお、成果として確かめられたことは、次のとおりである。

(1) 異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める国際理解教育の交流活動の進め方に関する基本構想の立案

異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める国際理解教育の交流活動の進め方に関する基本的な考え方として、表層的な気付きの段階、内面への気付きの段階、内面の理解の段階という指導の段階を設定した。また、その段階ごとに、かかわる活動、感情を共有する活動、見つめる活動を取り入れ、直接交流とふり返りを関連付けた段階的指導を取り入れた基本構想を明らかにすることができた。

(2) 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察

児童の異文化をもつ人々との交流に対する意識の実態について分析と考察を行った。その結果、直接交流では、ゲームと異文化をもつ人の話を中心に行い、遊び、スポーツ、食べ物、学校、「日本に来てから感じたこと」等の内容に児童がふれられるような手だてが必要であること、話す観点を明確に示してシェアリングを行い、児童が抵抗を感じずに参加できるようにする手だてが必要であることが明らかになった。

(3) 直接交流とふり返りを関連付けた段階的指導についての手だての試案の作成

基本構想及び実態調査に基づき、直接交流とふり返りを関連付けた段階的指導に、かかわる活動、感情を共有する活動、見つめる活動を取り入れた指導を継続的に行うための手だての試案を作成することができた。

(4) 指導実践及び実践結果の分析と考察

手だての試案に基づいて指導実践を行い、かかわる活動、感情を共有する活動、見つめる活動と個々の児童の意識の変容の関連に重点を置いて分析と考察を行うことにより、手だての試案が異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める上で有効であることを確かめることができた。

(5) 異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める国際理解教育の交流活動の進め方に関する研究のまとめ

実践結果の分析と考察に基づき、異文化をもつ人々に対する共感的理解を深める国際理解教育の交流活動の進め方について成果と課題を明らかにすることができた。

2 今後の課題

本研究を今後より生かすための課題として次のようなことが考えられる。

(1) 4学年の児童を対象として本研究を行ったが、高学年の児童においても引き続き異文化をもつ人々に対する共感的理解を深めていくために、発達段階や各教科との関連に考慮しながら、国際理解教育の交流活動の進め方について検討すること。

(2) 本研究の指導実践においては、「地域に住む日本語を話すことができる異文化をもつ人」との交流を行った。しかし、このような条件の人と交流することが難しい学校もあると考える。日本語を話すことができない異文化をもつ人々やALTとの交流の際に、本研究における手だての試案を活用する方策を探り、多くの学校で実践できるようにすること。

<おわりに>

長期研修の機会を与えてくださいました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と児童のみなさんに心から感謝を申し上げ、結びのことばといたします。

【参考文献】

國分康孝・岡田弘(1996),『エンカウンターで学級が変わる』,図書文化社
矢野正康・小寺道明(1994),「国際理解教育に関する実践例の開発～『同質性の理解』に視点を定めた国際理解教育の新たな展開を求めて」,『研究紀要2』,平成5年度,千葉市教育センター

補 充 資 料

< 目 次 >

【補充資料1】	見つめる活動において使用したカード等	資 1
1	フレンドカード ~	資 1
2	フレンドステップ	資 3
3	フレンドメモリ	資 3
【補充資料2】	実態調査の調査紙	資 4
【補充資料3】	分析シート	資 5
【補充資料4】	事前事後調査紙（働きかけようとする意識・考えようとする意識）	資 7
【補充資料5】	学習活動案	資 8
【補充資料6】	カード等への児童の記入例	資 12
1	フレンドカード	資 12
2	フレンドメモリ	資 14
3	異文化をもつ人への手紙（F児）	資 14

【補充資料1】見つめる活動において使用したカード等

1 フレンドカード ~ (~ A3版、 A4版)

フレンドカード①

8月27日(金)

名前 _____

(テーマ)

[_____] さん (外国の人) と交流しよう

(単元の学習活動)

月日	活動	内容
8月27日(金)	オリエンテーション	どんな活動をするのかを知り、自分のかだいをもつ
8月31日(火)	交流活動1	
9月7日(火)	交流活動2	
9月14日(火)	交流活動3	
9月16日(木)	まとめ	学んだことをふり振り返り、自分ができるようになったことをたしかめる

(交流活動の進め方)

1 **ゲーム**

- ・自分たちで決めたゲーム
- ・シークレットゲーム

2 **シェアリング**

感じたことや気づいたこと、考えたことを話し合う

3 **振り返る**

フレンドカードに、学習したことや感想、気づいたこと、考えなどを書く

4 **計画**

次の交流活動の計画を立てる

(交流活動は、これからのあなたの生活に、どのようにやくに立つと思えますか)

(かだい) あなたは、3回の交流活動をおして、どのように外国の人と交流できるようになりたいですか。

8月31日は、いよいよ1回目の交流活動です。ゲームの計画を立ててみよう!

自分の考えたゲーム

みんなで決めたゲーム

(今日の学習をして、感じたこと、気づいたこと、考えたこと)

(ふり振り返り) 交流活動1のゲームを考えようとしたか?

ア いっしょうけんめい考えようとした

イ 考えようとした

ウ あまり考えようとしなかった

エ 考えようとしなかった

先生から

フレンドカード②

8月31日(火)

名前 _____

(めあて)

『インタビューゲーム』ちがうね! 同じだね!

ちがうね!

同じだね!

(今日の交流活動で 感じたこと・気づいたこと・考えたこと)

(友達がしたことや、話したことで心に残ったこと)

(ふり振り返り) アンソニーさんにしつ問をして、自分とちがうところや おなじところを見つけようとしたか。一つえらんで、○をつけましょう。

ア 進んでしつ問をして、見つけようとした

イ 見つけようとした

ウ あまり見つけようとしなかった

エ 見つけようとしなかった

自分の考えたゲーム

みんなで決めたゲーム

(かだい) 次の交流活動で、どのようなことをがんばりたいですか。

先生から

9月16日(木)

フレンドカード⑤

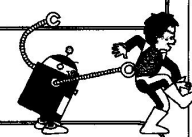

名前

〔かだい〕

〔交流活動をおして、できるようになったよ〕

- こんなふうに行えるようになったよ
- こんなふうに見えるようになったよ

〔交流活動で学んだことで、ほかの外国の人と接するときに生かしたいこと〕

2 フレンドステップ


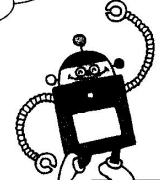
フレンドステップ

名前

なかよしのかいだんだよ。楽しくのぼろうね！

できたところに色をぬろう！！

- 1回目の交流活動…黄色
- 2回目の交流活動…黄みどり
- 3回目の交流活動…みず色



◆ゲームのときにアンソニーさんに話しかけたよ	◆ゲームのときにアンソニーさんに話しかけたよ	◆ゲームのときにアンソニーさんに話しかけたよ	◆交流会のとき、自分の気持ちをアンソニーさんに話したよ
◆ゲームで同じところを5つ以上見つけたよ	◆シェアリングで、アンソニーさんに気づいたことを話したよ	◆シェアリングで感じたことを話したよ	◆シェアリングのとき自分の気持ちや考えたことを話したよ
◆交流で出あいを楽しむゲームを考えたよ	◆ゲームでちがうところを5つ以上見つけたよ	◆アンソニーさんについて分かったことをもとに交流のゲームを考えたよ	◆フレンドカードにアンソニーさんが「日本に来て感じていること」について思ったことを書いたよ
◆ゲームでちがうところを5つ以上見つけたよ	◆アンソニーさんについて分かったことをもとに交流のゲームを考えたよ	◆アンソニーさんが楽しんでもくれるように最後の交流会の計画を立てたよ	◆フレンドカードにアンソニーさんの生き方について感じたことや考えたことを書いたよ
◆交流で出あいを楽しむゲームを考えたよ	◆ゲームでちがうところを5つ以上見つけたよ	◆アンソニーさんについて分かったことをもとに交流のゲームを考えたよ	◆アンソニーさんへの手紙に自分の気持ちを書いたよ

3 フレンドメモリ


フレンドメモリ

名前

〔スタート〕 はなれる ← → ちかづく




〔1回目の交流活動の後は…〕




そのメモリにしたわけは？

〔2回目の交流活動の後は…〕



そのメモリにしたわけは？

〔3回目の交流活動の後は…〕



そのメモリにしたわけは？

外国人の人との交流活動についてのアンケート

4年 番 名前

みなさんへのおねがい

このアンケートは、外国人の人との交流活動について、みなさんがどのようなことを思っているのかを調べて、これからのみなさんの活動に役立てるためのものです。テストではありませんから、自分が思ったとおりに書いてください。

日本語を話すことができる外国人の人と、交流活動をするとします。

- 1 あなたは、外国人の人と交流活動をするとき、どんなことをいっしょにしてみたいですか。してみたいこと**ぜんぶ**に をつけてください。

- ア ゲームやあそびをする
- イ 歌を歌う
- ウ 話をする
- エ その他 ()

どんなことをしたいか書いてください

- 2 あなたは、外国人の人にどんなことを聞いてみたいですか。聞いてみたいと思うこと**ぜんぶ**に をつけてください。

- ア 外国の学校のこと
- イ 外国のあそびのこと
- ウ 外国の歌のこと
- エ 外国の食べ物のこと
- オ 外国のスポーツのこと
- カ 外国の人の家族のこと
- キ 外国の人が日本に来て感じたこと
- ク その他 ()

聞いてみたいことを書いてください

- 3 (1) あなたは、交流活動で感じたことを、外国人の人に話したいと思いますか。自分の気持ちにあてはまるものを一つえらんで、 をつけてください。

- ア とても話したい
- イ 話したい
- ウ あまり話したくない
- エ 話したくない

- (2) (1)でウやエに をつけた人だけ答えてください。

交流活動で感じたことを、外国人の人に話したくないと思うわけで、自分の気持ちにあてはまるもの**ぜんぶ**に をつけてください。

- ア 自分が感じたことをどのように話したらいいか、わからないから
- イ 自分が感じたことを話しても、外国人の人にわかってもらえるか心配だから
- ウ 自分が感じたことを外国人の人がどう思うか心配だから
- エ その他 ()

話したくないわけを書いてください

【補充資料3】分析シート

〔 児 童 の 姿 〕

児童名 A 児

段階	活動	行動観察・発言・フレンドカードの記述	段階		
			1	2	3
表層的な気付きの段階	【計 画】	「フルーツバスケットをしてみたい」(フレンドカード) 「外国の人がどんな遊びをすれば喜んでくれるかをいっしょうけんめい考えた」(フレンドカード)	■		
	【ゲーム1】	アンソニーさんがグループに来たとき、めんこの仕方を説明している。顔をよく見ている(観察)		●	
	【ゲーム2】	「嫌いな食べ物は何か」「好きな日本の遊びは何ですか」ゲームに参加し質問している【発言】		●	
	【シェアリング】	「アンソニーさんは塩辛が嫌いと言ったのでびっくりした」【発言】		●	
内面への気付きの段階	【記 録】	自分との共通点10以上、相違点を5以上見つけている【フレンドカード】 「好きな食べ物は、ほとんどアンソニーさんと同じだった。アンソニーさんは、アメリカのいろんな所を回ったりして大変だなと思った。アンソニーさんがみそ汁が好きと聞いて、どんなみそ汁が好きなのかなと思った」【フレンドカード】			△
	【計 画】	「だるまさんがころんだをしたい」(アンソニーさんが好きな日本の遊び)【フレンドカード】		■	
	【ゲーム1】	楽しそうにゲームに参加しているが、アンソニーさんに話しかけることはない【観察】		●	
	【ゲーム2】	相手の気持ちを考えて接することが大切な理由をアンソニーさんに説明した【観察】		●	
内面の理解の段階	【シェアリング】	「アメリカのお風呂は浅いけれど、横に長いと言っていたので驚きました。お風呂の入りが違うのかなと思いました」【発言】 「外国の人と考え方に違っても、当たり前だと思います」(発言)			●
	【記 録】	「アンソニーさんが、海を一日そうじしたと聞いてそういう活動をするのがいいと思いました。みんながごみを捨てないようにすればいろんな所がきれいになるといいと思いました」【フレンドカード】			△
	【計 画】	「だるまさんがころんだとフルーツバスケットをして、みんなであく手をする」(フレンドカード) (アンソニーさんが好きな日本の遊びをしようとしている。あく手で気持ちを伝えようとしている)			■
	【ゲーム1】	明るい表情でゲームに参加【観察】		●	
まとめ	【握手】	「アンソニーさんと3回交流して、アメリカの遊びや小さい頃のアメリカでのお話をしてくれてありがとうございました。」【発言】			●
	【シェアリング】	「アンソニーさんの話を聞いて今度から道路にごみが落ちていたら拾うようにしたいし、戦争を起こしてはいけないと分かりました」【発言】			●
	【記 録】	「日本ではごみ問題を真剣に考えた方がいいと言っていたので少しずつごみを減らしていくには、道路などに落ちているごみを拾えばいいと思いました。アンソニーさんに3回の交流で分かったことを伝えることができました」【フレンドカード】 【アンソニーさんになって気持ちを考えてみる】 「4年生のみんなは、ごみのことや戦争のことを分かってくれたかな。また、みんなと遊びたいな。」			△
	【手 紙】	「(略) 次のインタビューゲームでは、アンソニーさんとちがうところもあったけど、ほとんど同じでした。とくに塩からがきらいと聞いてびっくりしました。アメリカのことについてくわしく説明してくれたので分かりやすかったです。3回目の交流活動は、ゲームで『グリーンライト…』と『だるまさんがころんだ』を合わせたゲームで、最初はルールがよく分からなかったけど、何回かやるうちになれてきました。日本のゲームと外国のゲームを合わせることができるといことが分かりました。あくしゅをして、アンソニーさんと友達になれた気がしました。(略)」			■
	【交流活動をとおしてできるようになったこと】	「今まではあまり外国の人と活動するとき外国の人に話しかけることができなかつたけど、外国の人に話しかけることができるようになった」【フレンドカード】			
	【ほかの外国の人と接するときに生かしたいこと】	「外国の人と会った時に自分から話しかけるよにしたい。今度からの交流のときにたくさん話せるようにしたい」【フレンドカード】			



かかわる活動
感情を共有する活動
見つめる活動

段階1 表層的な気付きの段階
段階2 内面への気付きの段階
段階3 内面の理解の段階

● 働きかけようとする意識
△ 知ろうとする意識
■ 考えようとする意識

フレンドメモリ (選んだ数)					理由	フレンドステップ (色を塗った項目) と 児童個々の課題	自己評価
0	1	2	3				
	○				たから アンソニーさんのことが少し分かった	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">[課題] あいさつなどを教えてもらっているんな国の人もあいさつができるようにしたい</div> <ul style="list-style-type: none"> ■交流で出会いを楽しむゲームを考えたいよ ●ゲームのときにアンソニーさんに質問したよ ●シェアリングでアンソニーさんに気付いたことを話したよ ●ゲームのときにアンソニーさんに話しかけたよ △ゲームで同じところを五つ以上見つけたよ △ゲームで違うところを五つ以上見つけたよ 	アンソニーさんに質問をして自分と違うところや同じところを見つけようとしたか。 4 進んで質問をして見つけようとした 3 見つけようとした 2 あまり見つけようとしなかった 1 見つけようとしなかった 1 2 3 4 <div style="text-align: right;"> ●</div>
		○			理由を言えたから 「四つの窓」でアンソニーさんに	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">[課題] 今日は大きな声で話すことがあまりできなかったので、今度は大きな声で話したい</div> <ul style="list-style-type: none"> ■アンソニーさんについて分かったことを基に交流のゲームを考えたいよ ●シェアリングで感じたことを話したよ △フレンドカードに「アンソニーさんが日本に来て感じていること」について思ったことを書いたよ 	アンソニーさんと自分の感じたり考えたりしていることを比べて似ているところや違うところを見つけましたか。 4 比べてその理由も考えた 3 比べて似ているところや、違っているところを見つけた 2 比べようとしたけれど見つけられなかった 1 比べようとしなかった 1 2 3 4 <div style="text-align: right;"> ● </div>
			○		会にできたから アンソニーさんの思い出に残る交流	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">[課題] アンソニーさんの心に残るみんなが楽しめる交流会にしたい</div> <ul style="list-style-type: none"> ■アンソニーさんが楽しんでくれるように最後の交流会の計画を立てたよ ●交流会のときアンソニーさんに自分の気持ちを話したよ ●シェアリングのとき自分の気持ちや考えたことを話したよ △フレンドカードにアンソニーさんの生き方について感じたことや考えたことを書いたよ ■アンソニーさんへの手紙に自分の気持ちを書いたよ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> [塗らなかつた項目] なし </div>	握手をしたときやシェアリングのときに、自分の気持ちをアンソニーさんに伝えられましたか。 4 十分に伝えることができた 3 だいたい伝えることができた 2 少ししか伝えることができなかった 1 ぜんぜん伝えることができなかった 1 2 3 4 <div style="text-align: right;"> ●</div>

事前事後調査	意識	働きかけようとする意識			考えようとする意識		
	選択肢	設問	一緒に楽しもう	話しかけよう	感じたことを話そう	分かっていることを生かさう	気持ちを考えながら
	ア 思う		▲			▲	
	イ 思うことが多い		●	▲	▲	■	■
	ウ 思うことが少ない			●	●		
	エ 思わない						

考察

○交流1のかかわる活動から選んでアンソニー氏にゲームの仕方を説明し、意欲的に働きかけている。交流2、3でのアンソニー氏の話に対して自分の考えをもち、交流3のシェアリングで伝えることができた。まとめの段階の記録にあるように交流活動全体をとおして、異文化をもつ人話しかけようとする意識が高まった。事後テストで「+」に寛容している。

▲交流2のかかわる活動で、アンソニー氏の「生き方について」の話をとおして相手の内面に気付いた。見つめる活動でそれに対する自分の考えを記録し、内面の理解を深めた。

■交流1のかかわる活動のゲームで分かったことを生かして、交流3の交流会にアンソニー氏の好きな遊びを取り入れる計画を立てることができた。交流1、2をとおして気持ちを伝えようとする意欲が高まり、「気持ちを伝えるために握手をする」という計画を立てることができた。

【補充資料4】事前事後調査紙（働きかけようとする意識・考えようとする意識）

ア ン ケ ー ト の お ね が い

このアンケートは、みなさんが外国の人との交流活動について、どんなことを思っているのかを知るためのものです。テストではありませんから、リラックスして、いつも思っているとおりに答えてください。

これまでの交流活動を思い出して、自分の気持ちに一番よくあてはまると思う記号を一つえらんで をつけてください。

4年 番 名前

【働きかけようとする意識】

- 1 あなたは、交流活動でゲームをしているとき、自分が楽しむだけではなく、「外国の人といっしょに楽しもう」と、思いますか。

ア 思う
イ 思うことが多い
ウ 思うことは少ない
エ 思わない

- 2 あなたは、交流活動でゲームをしているとき、「自分から進んで外国の人に話しかけよう」と思いますか。

ア 思う
イ 思うことが多い
ウ 思うことは少ない
エ 思わない

- 3 あなたは、交流活動で、「自分が感じたり考えたりしたことを、外国の人に話そう」としますか。

ア 話そうとする
イ 話そうとすることが多い
ウ 話そうとすることは少ない
エ 話そうとしない

【考えようとする意識】

- 4 あなたは、交流活動をしているときに、「外国の人についてわかっていることを生かして、交流をしよう」と、考えますか。

ア 考える
イ 考えることが多い
ウ 考えることは少ない
エ 考えない

- 5 あなたは、交流活動をしているときに、「外国の人の気持ちを考えながら交流をしよう」と、考えますか。

ア 考える
イ 考えることが多い
ウ 考えることは少ない
エ 考えない

これで、アンケートは 終わりです。
ありがとうございました

【補充資料5】学習活動案

第4学年 すこやか（総合的な学習の時間）学習活動案

期 間 平成16年8月27日～9月17日
対 象 東和町立土沢小学校4年生
男子11名 女子14名 計25名
指導者 谷 藤 明 子

1 すこやかの時間で目指す4年生の児童像

- (1) 自ら課題を見付け、自分なりの方法でねばり強く解決していく子
 - ・興味・関心を基に自分なりの課題を見付け、進んで調べたり、体験しようとしたりする子
 - ・自ら課題を見付け、自分なりの方法で追究・解決することができる子
 - ・課題解決の手順や方法を知り、それを生かして自分の課題を追究したり、その過程や結果を表現したりすることができる子
 - ・教科の学習で学んだことを生かして、課題解決の学習に取り組むことができる子
- (2) 人や環境とかかわりながら、自分の考えを深めたり共感したりすることができる子
 - ・自他の違いを見付けて認め合うことができる子
 - ・他とかかわりながら、自分の考えを深めることができる子
 - ・課題を追究・解決するために他とかかわり、方法を工夫して表現することができる子
 - ・情報交換をして得た知識を、自分の課題解決に生かしていくことができる子

2 国際理解教育において目指す4年生の児童像

- (1) 郷土の文化と伝統を大切にし、郷土を愛する子
- (2) 他との共通性や違いを探り、相手の立場に立って理解しようとする子

3 単元名 アンソニーさんと交流しよう

4 単元について

- (1) 単元について
本単元のねらいは、交流活動をとおして、児童の異文化をもつ人に対する共感的理解を深めることである。4年生における異文化をもつ人に対する共感的理解とは、「異文化をもつ人との共通性や違いを探り、相手の立場に立って考えようとする」とする。
- (2) 児童について
児童は、これまでの交流活動において、異文化をもつ人と楽しんで接している。また、実態調査から、児童は、外国の遊びやスポーツ、学校、食べ物など、自分たちにとって身近な生活や文化と関連することについて興味や関心をもっていることが分かった。しかし、交流した人の感情や考え方、生き方などの内面を共感的に理解するまでには至っていない。これは、異文化をもつ人と接しながらも、相手のことを理解しようとする意識が薄いことによると思われる。また、異文化をもつ人と感情を共有し合うような活動や、相手の立場に立って考えるような活動を十分に行ってこなかったことも要因として考えられる。
- (3) 指導にあたって
指導にあたって、本単元（計8時間）では、直接交流とふり返りを関連付けた交流活動を継続的に行う。また、異文化をもつ人に対する知識の上での気付きを内面的な理解へ深める指導の段階を「表層的な気付きの段階」「内面への気付きの段階」「内面の理解の段階」と設定し、その段階ごとに、異文化をもつ人と共に行動しかかわる活動、共に直接交流をふり返り感情を共有する活動、共感的理解の変容を自分自身で見つめる活動を取り入れた指導を行い、児童の異文化もつ人に対する共感的理解を深めるようにする。

5 単元の目標

- 異文化を持つ人との共通性や違いを探り、相手の立場に立って考えようとする
- ・異文化をもつ人と共に行動し、自ら働きかけようとする
 - ・異文化をもつ人との共通性や違いを知ろうとする
 - ・相手の立場に立って考えようとする

〔交流活動1〕 表層的な気付きの段階 学習活動案（第2・3時）

1 ねらい

児童に身近な生活や文化について、異文化をもつ人との共通点や相違点に気付かせる。

2 展開

活動名	学 習 活 動	教 師 の 支 援	主な見取りの視点
か か わ る 活 動 (45)	<p>1 学習のめあてを知る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 自分とアンソニーさんの違うところや同じところを見つけよう </div> <p>2 直接交流をする</p> <p>(1) ねらいに迫るための活動 をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンソニー氏の自己紹介を聞き、自分との共通点や相違点を見付ける <p>(2) 児童の計画による活動をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出会いを楽しむためのゲームをする <p>(3) ねらいに迫るための活動 をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンソニー氏に質問し、自分との共通点や相違点を見付けるゲームをする（インタビューゲーム） 	<p>自己紹介に子どもの頃の遊びや小学校の様子を入れて話していただく</p> <p>身体的な特徴などではなく、話の内容から共通点や相違点を見付けるようにさせる</p> <p style="text-align: center;">（フレンドカード）</p> <p>担当になった児童にゲームのルールを説明させる</p> <p>1回ずつどの児童にも質問させ、その後は、挙手により質問するようにさせる</p> <p style="text-align: center;">（フレンドカード）</p>	<p>ゲームで質問したか</p>
す 感 る 情 活 を 動 共 有 (15)	<p>3 シェアリングをする</p> <p>(1) 直接交流をした感想を話し合う</p> <p>(2) 「相違点があっても仲良くなることができるか」について話し合う</p>	<p>1回目のシェアリングなので、気付いたことを中心に話すようにさせる。感想は全員に発言させるようにする</p> <p style="text-align: center;">（フレンドカード）</p>	<p>シェアリングで気付いたことを話したか</p>
見 つ め る 活 動 (20)	<p>4 記録する</p> <p>(1) フレンドカードに記録する</p> <p>(2) フレンドステップ・フレンドメモリを使って自己評価をする</p> <p>(3) 次の交流活動に向けて、自分の課題を決める</p>	<p>交流やシェアリングをとおして気付いたことを中心に記録するようにさせる</p> <p style="text-align: center;">（フレンドカード）</p> <p>ねらいにかかわるような記述については、紹介し、他の児童にも広げる</p>	<p>生活や文化の共通点や相違点に気付いたか</p>
か か わ る 活 動 (10)	<p>5 計画を立てる</p> <p>(1) 交流活動2のゲームを考える</p>	<p>「アンソニーさんについて分かったことを生かすように」という観点で計画を立てるように児童に伝える</p> <p style="text-align: center;">（フレンドカード）</p>	<p>アンソニー氏について分かったことを基に、ゲームを計画したか</p>

...働きかけようとする意識

...知ろうとする意識

...考えようとする意識

〔交流活動2〕 内面への気づきの段階 学習活動案（第4・5時）

1 ねらい

児童と異文化をもつ人の思いや価値観等、内面の共通性や違いに気付かせる。

2 展開

活動名	学 習 活 動	教 師 の 支 援	主な見取りの視点
か か わ る 活 動 (45)	<p>1 学習のめあてを知る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>アンソニーさんが感じたり考えたりしていることを、自分が感じたり考えたりしていることとくらべてみよう</p> </div> <p>2 直接交流をする</p> <p>(1) 児童の計画による活動をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化をもつ人について分かったことを生かしたゲーム <p>(2) ねらいに迫るための活動をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの価値観等が表れるゲームをする（四つの窓） ・アンソニー氏の話、「日本に来て感じたこと」についての話を聞く 	<p>担当になった児童にゲームのルールを説明させる</p> <p>下記のような質問に対して、四つの選択肢から一つ選び、理由を話し合う</p> <p>「無人島に持って（連れて）行くとしたら」</p> <p>「一年のうちで好きな日は」</p> <p>「外国の人と接するとき、一番大切だと思うことは」</p>	<p>ゲームで話しかけたか</p>
す 感 情 活 動 共 有 (15)	<p>3 シェアリングをする</p> <p>(1) 直接交流をした感想を話し合う</p> <p>(2) 自分とアンソニー氏の感じ方、考え方の共通性や違いについてどう思うかを話し合う</p>	<p>感じたことや気付いたこと、考えたことについて話し合う感想は全員に発言させるようにする</p>	<p>シェアリングで感じたことを話したか</p>
見 つ め る 活 動 (10)	<p>4 記録する</p> <p>(1) フレンドカードに記録する</p> <p>(2) フレンドステップ、フレンドメモリを使って自己評価をする</p> <p>(3) 次の交流活動に向けて、自分の課題を決める</p>	<p>交流やシェアリングをとおして感じたことや気付いたこと、考えたことを記録させる（フレンドカード）</p> <p>ねらいにかかわるような記述については、紹介し、他の児童にも広げる</p>	<p>異文化をもつ人の思いや共通性・違いがある理由を考えることができたか</p>
か か わ る 活 動 (20)	<p>5 計画を立てる</p> <p>(1) 交流活動3の計画を立てる</p>	<p>ゲームだけではなく、交流全体の計画を立てさせる</p> <p>交流の計画を立てる観点として、「学んだことを生かすこと」「アンソニーさんに対する自分たちの思いが表れるようにすること」の二つを伝える（フレンドカード）</p>	<p>相手について学んだことを基に相手の立場に立って交流の計画を立てようとしたか</p>

...働きかけようとする意識

...知ろうとする意識

...考えようとする意識

〔交流活動3〕 内面の理解の段階 学習活動案（第6・7時）

1 ねらい

異文化をもつ人の内面にふれ、相手の立場に立って考えようとする意識を児童にもたせる。

2 展開

活動名	学 習 活 動	教 師 の 支 援	主な見取りの視点
か か わ る 活 動 (45)	<p>1 学習のめあてを知る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 自分たちの気持ちを伝え、アンソニーさんの思い出にのこるような交流をしよう </div> <p>2 直接交流をする</p> <p>(1) 児童の計画による交流会をする</p> <p>(2) ねらいに迫るための活動をする ・アンソニー氏の「生き方について」の話を聞く</p>	アンソニー氏とかかわることができない児童を励ます	交流の中で自分の気持ちを伝えたか
す 感 る 情 活 を 動 共 有 (15)	<p>3 シェアリングをする</p> <p>(1) 直接交流をした感想を話し合う</p> <p>(2) 自分たちが計画した交流会について、アンソニー氏が感じたことを聞く</p>	アンソニー氏の生き方や、自分たちが計画した交流について感じたことや気付いたこと、考えたことについて話し合わせる 感想は全員に発言させるようにする	考えたことをシェアリングで話しているか
見 つ め る 活 動 (30)	<p>4 記録する</p> <p>(1) フレンドカードに記録する</p> <p>(2) フレンドステップ、フレンドメモリを使って自己評価をする</p> <p>(3) アンソニー氏への手紙を書く</p>	交流やシェアリングをとおして感じたことや気付いたこと、考えたことを記録させる （フレンドカード） ねらいにかかわるような記述については、紹介し、他の児童にも広げる 手紙は、児童の思いを伝えるような内容になるように支援する （手紙）	異文化をもつ人の生き方について自分の感想や考えをもったか

...働きかけようとする意識

...知ろうとする意識

...考えようとする意識

【補充資料6】カード等への児童の記入例

1 フレンドカード

8月27日(金)

フレンドカード①

名 前

【テーマ】
【アンソニー】さん(外国の人)と交流しよう

【単元の学習活動】

月 日	活 動 内 容
8月27日(金) オリエンテーション	どんな活動をするのかを知り、自分のかたいをもち
8月31日(火) 交流活動1	自分とアンソニーさんのおちがうところや同じところを見つけよう。
9月 7日(火) 交流活動2	アンソニーさんが感じたり考えたりしていることを自分も感じたり考えたりしていることをくらべてみる
9月14日(火) 交流活動3	自分たちの気持ちを伝えアンソニーさんの思い出に残るような交流をする
9月16日(木) ま と め	学んだことを振り返り、自分ができるようになったことをたしかめる

【交流活動の進め方】

- ゲーム
・自分たちで決めたゲーム
・シークレットゲーム
- シェアリング
感じたことや気づいたこと、考えたことを話し合う
- 振り返り
フレンドカードに、学習したことや感想、気づいたこと、考えなどを書く
- 計画
次の交流活動の計画を立てる

【交流活動は、これからのあなたの生活に、どのようにやくに立つと願っていますか】

外国の人と友達になつたり話をしけりてきょうになり、外国人になれて話しやすくなると思う。

【かだい】
あなたは、3回の交流活動者として、どのように外国の人と交流できるようになりたいですか。

いろんなことをきいて外国のことを知ろうにする。

8月31日は、いよいよ1回目の交流活動です。ゲームの計画を立ててみよう！

【計画】こんなゲームをしてみたい

自分が考えたゲーム
フルーツバスケット

みんなで決めたゲーム
日本の遊び

【今日の学習をして、感じたこと、気づいたこと、考えたこと】

計画を立てて交流活動が楽しみにになりました。

【振り返り】交流活動1のゲームを考えようとしたか？ しるしをつけよう

A いっしょうけんめい考えようとした
B 考えようとした
C あまり考えようとしなかった
E 考えようしなかった

先生から
さんが書いているように外国の人になれるということは、たいじな事だと思ひます。これからは日本に住む外国生まれの人がとんとんは出てくると思いますから、交流活動1が、楽しい活動になるといいですね。

8月31日(火)

フレンドカード②

名 前

【めあて】
自分とアンソニーさんのちがうところや 同じところを見つけよう。

『インタビューゲーム』ちがうね！同じだね！

ちがうね！
・かんさつ好き ぬいぐるみ好き
・英語を教える(担任事)ペロア(パソコン)がほしい。
・お茶が好き オアシス(観音堂) たまご(お茶)が好き
・マンガが好き コン・ごめんなさいを日本にきておぼえた。
・せいとんがとくい オウガ(ガ)をかっている。外国の言葉が好き
・クマが好き(ハチミツも) ワンツ(の研究)にオウガ(ガ)が好き
・三角が好き
・A型 しょうきが嫌い 水泳が好き 5人家族
・イルカが好き しまからかさらい オウガ(ガ)が好き
・工作が好き アニメ好きになつた。サッカーが好き
・記憶が一番宝物 といふのがよくはちり
・日本の方が好き ゲームが好き 麦茶が好き ちま(オレンジ)
・メロン・アム(ア)・ア(ア)が好き(アメリカ)

同じだね！

【今日の交流活動で 感じたこと・気づいたこと・考えたこと】

アンソニーさんが好きなことが少し意外なことでした。私と同じことが1つくらいあってびっくりしました。

【友達にしたことや、話したことや思い出したこと】
かんたむ(か)のや(ア)いた(ア)が全員アンソニーさんに教えていてたいてい思ひました。

【振り返り】
アンソニーさんにしつ問をして、自分とちがうところや おなじところを見つけようとしたか、一つえらんで、○をつけよう。

② 進んでしつ問をして、見つけようとした
イ 見つけようとした
ウ あまり見つけようとしなかった
E 見つけようとしなかった

【計 画】2回目の交流活動は、9月7日(火)です。ゲームの計画を立てましょう。

自分が考えたゲーム
レトロライト
グリーンライト

みんなで決めたゲーム
レトロライト
グリーンライト

【かだい】 次の交流活動で、どのようなことをがんばりたいですか。

進んでアンソニーさんに話しかけたり一緒に遊んだりする。

先生から
さんとアンソニーさんの同じところ、「1つはよく見つけましたね。お茶が好きなのは、何ですか」というインタビューのしつ問もとてもいいなと思ひました。好きなこと(遊)には、その人の生き方が表れるからです。
「地球(世界)をばで考え、地域で活動する」としたね。

フレンドカード③ 9月7日(火)

【めあて】
アンソニーさんが感じたり考えたりしていることを自分が感じたり考えたりしていろいろとくらべてみよう。

- 【シークレットゲーム：「4つのまど」】
問題をよく聞いて、A・B・C・Dから一つだけ、自分の考えとあうものを選んで、○をつけましょう。どれも選んでも、まちがいはありません。なぜ、それを選んだか、その理由が大切なのです。
- 1 A 好きな食べ物 B 好きな本(まんがもよいよ) C 友達を一人 D 家族みんな
2 A たんじょう日 B クリスマス C 夏休み D 冬休み
3 A 自分のことを書いてあげる B 相手の国のことや、相手の国のことばを勉強する C 自分から進んで話しかける D 相手の気持ちを考えて、せつする
4 A 東和町 B 東京 C 東和町・東京以外の日本のどこか D 外国

【アンソニーさんのお話のメモ】
日本に来て感じたこと(アンソニーさん)
日本に初めて来たのは1985年、山が本島の小さな町に来た。日本のいなかの暮らしを知ることがた。日本でタクシーの周りと車をきれいにしている日本はきれいな国だと思った。お風物が小さくてびっくりした。新幹線の速さにびっくりした。高等学校は全校100位内だった。

【今日の交流活動で 気づいたこと・感じたこと・考えたこと】

日本の物(お風物など)が小さいとアンソニーさんは言っていたけど、私は外国の物が大きいんじゃないかと思いました。

- 【友達がしたことや、話したことや心に思ったこと】
4つのまどより3問目で自分のことを教えた友達に「あれ」という考えが心に残りました。アンソニーさんが、感じたり考えたりしていることを、自分が感じたり考えたりしていることとくらべましたか。一つ選んで、○をつけましょう。
- A くらべて、にているところや、ちがっているところがある理由を考えた
B くらべて、にているところや、ちがっているところを見つけた
C くらべようとしたけれど、にているところや、ちがっているところを見つけられなかった
D くらべようとしなかった

- 【かだい】と【計 画】
○ 3回目の交流(9月14日)は、30分間の交流会を自分たちで計画します。
○ これまでの2回の交流活動で分かったことを生かしましょう。
○ アンソニーさんへの一人ひとりの気持ちを表しましょう。(手紙は、3回目の交流の時に書きます)

【かだい】こんな交流会にしたい アンソニーさんの思い出になるような交流会にしたい。

【計 画】こんなことを交流会でやってみたい。だるまさんが轆轤を回す。グリーンライト、イエローライト、レッドライトを合わせてやってみよう。

先生から
さんが気づいたことと書いてあるように、日本人にとっては外国の物は大きい。外国人にとっては日本の物は小さい...と見方を改めて考えることが大切ですね。

フレンドカード④ 9月14日(火)

【めあて】
自分達の気持ちを伝え、アンソニーさんの思い出に残るような交流をしよう。

【アンソニーさんのお話のメモ】

- アメリカには生るまごが轆轤はいい。
- ゲーム(お風物が轆轤はグリーンライト、イエローライト、レッドライト)しかた。
- 日本で自分の所かきれならば他の所へごみをたたくという人ができた。ごみの問題についてアンソニーさんは、海や道路をきれいにゴミがあるとすこいね、すかないほしいと思ふ。
- ごみではないけれど、動かさずにはまってるままにしないでアンソニーさんは助けた(したい)というその気持ちを持ってほしい。
- 助けていなくても自分の都合が悪いから助けないというのはアンソニーさんはかたが思う。
- アンソニーさんは日本が安心な国、戦争のない国であってほしい。(これが法)
- か兵器がなくなるといいが、戦争が終

【今日の交流活動で 気づいたこと・感じたこと・考えたこと】

○ アンソニーさんにどんな気持ちを伝えたのかな。
○ アンソニーさんのお話を聞いて、どんなことを考えたのかな。

アンソニーさんが最後の列に言っていた「国同士が戦争をして仲間、地球で生まれた人間同士、生きてはいい、はずと感心しました。たしかに国はちがって生まれたこの地球は一緒だということも考えました。

- 【友達がしたことや、話したことや心に思ったこと】
あく手をしながら、みんなすこいことを言っていました。とくに「ありがとうございます」と初めに吉永光平君は勇気があるなと思いました。
- 【ふり返り】
あくしゅをしたときや、シェアリングのときに、自分の気持ちをアンソニーさんに伝えられましたか。一つ選んで、○をつけましょう。
- A じゅうぶんに 伝えることができた
B だいだい 伝えることができた
C 少ししか 伝えることができなかった
D ぜんぜん 伝えることができなかった

【考えてみよう】
3回の交流活動が終わって、アンソニーさんは、どんな気持ちなのかな。どんなことを考えているのかな。アンソニーさんになったつもりで、書いてみよう。

これで交流活動が終わりなんてものたりないな。みんなまた遊べるかな。

先生から
これはアンソニーさんのお話の中でもとくに大切なところをしっかりと聞いておくれ。「同じ地球で生まれた人間同士、いいことばですね。」

9月16日(木)

フレンドカード⑤

名前 _____

【かだい】

学んだことをふり返り、自分ができるようになったことをましかめよう。

【交流活動をおして、できるようになったよ】

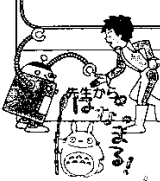
- こんなふうに見えるようになったよ
- こんなふうに見えるようになったよ

1回目の交流会でははずかしくてあまり話せなかつたけど2,3回目の交流会では少ししか話せなかつたけど話せるようになりまし。インタビューゲーム、4つのまどをやってアンソニーさんの気持ちも考えられるようになりまし。

【交流活動で学んだことで、ほかの外国の人と接するときに生かしたいこと】

どんな外国の人にあつてもちゃんとあいさつをして相手の顔を見て話しかけたいです。

少しづつ アンソニーさんとお話ができるようになったし、アンソニーさんの気持ちも考えるようになったんだね。かんばつたね。外国の人にもちゃんとあいさつをするの大切なことだね。



2 フレンドメモリ

フレンドメモリ

名前 _____

【スタート】 はなれる ← → ちかづく

1回目の交流活動の後は…

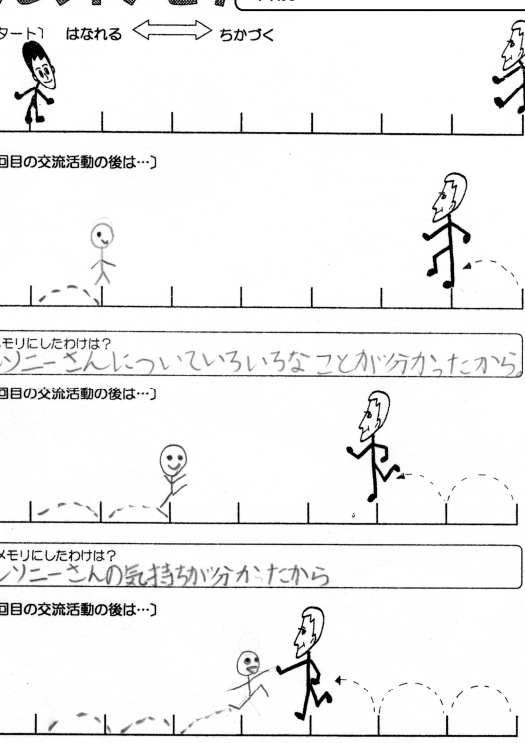
そのメモリにしたわけは？
アンソニーさんについていろいろなことが分かったから

2回目の交流活動の後は…

そのメモリにしたわけは？
アンソニーさんの気持ちが分かったから

3回目の交流活動の後は…

そのメモリにしたわけは？
アンソニーさんに自分の気持ちを伝えたいから。



3 異文化をもつ人への手紙 (F児)

アンソニーさんへ

私が一番楽しかったことは、たろまさんが転んだ+グリーンライト・イエローライト・レッドライトをしたことです。アンソニーさんはルールのことなどを喜んでくれたけれど、アンソニーさんが子どもの時に遊んだ遊びや好きな遊びを話してくれたのでこのゲームができたと思ひます。ありがとうございます。

アンソニーさんが好きな言葉「言葉まで覚えて地いきで運動する」は忘りに残りました。それからの話を聞いてアンソニーさんは人のことを考えるやさしい人だなと思ひました。

アンソニーさんは日本のことをいろいろとほめてくれたけれど、いんしょうが変つてきたというものもあってアンソニーさんはがっかりしたと思ひます。私もほめてくれたけれど、少しがっかりします。

英語交流をしてアメリカのことが分かったし、アンソニーさんと一緒にやったゲームも楽しかったです。また一緒にゲームをしようと思ひます。楽しみにありがとうございます。

